

【別冊】

令和 6 年度 社会福祉法人白日会事業報告

社会福祉法人白日会

目 次

1	令和6年度 事業報告総括	1
2	令和6年度たんぽぽ保育園事業報告	2
3	令和6年度特別養護老人ホーム照古苑事業報告	6
4	令和6年度地域密着型介護老人福祉施設照古苑ひまわりホーム事業報告	13
5	令和6年度宇土市地域包括支援センター事業報告	21
6	資料編	38
(1)	地域における公益的取組	38
①	生計困難者レスキュー事業	38
②	公開講座	38
(2)	利用者の状況	39
①	たんぽぽ保育園	39
②	五色山学童クラブ	39
③	特別養護老人ホーム照古苑	39
④	ひまわりホーム	40
⑤	照古苑ショートステーション	40
⑥	照古苑ひまわりホームショートステイ	40
⑦	照古苑デイサービスセンター	41
⑧	照古苑ひまわりホームデイサービス	41
⑨	ウェルネス照古苑いきいき道場	42
⑩	照古苑居宅介護支援事業所	43
⑪	地域包括支援センター	44
(3)	地域包括支援センター活動実績	45
(4)	資金収支状況	49
①	法人本部拠点	49
②	たんぽぽ拠点	50
③	照古苑拠点	51
④	ひまわり拠点	53
⑤	公益事業拠点	54
(5)	積立資産状況	55

令和6年度 白日会実績報告

総括

第1期長期経営計画の4年目となる令和6年度は、法人の基本理念と長期経営計画の実現に向け取り組んでまいりました。

経営面においては、昨年、養護老人ホーム芝光苑の宇土市からの譲渡のお話をいたしましたが、結果としては、辞退をさせていただきました。

菊陽町に進出したTSMC建設の影響で建築費が大きく高騰したことで、照古苑と芝光苑を合築するとなると、照古苑自体の経営が行き詰まる恐れがあると判断したものです。

人手不足、円安、金利上昇などもその要因のひとつです。

それでも、築50年を迎えようとする照古苑の改築は2年程度遅れてでも進めてまいります。

令和6年度の照古苑とひまわりホームを合わせた経営状況は、大変厳しい状況にあります。

人事管理面において、夜勤を行っている介護職員の離職により、照古苑ショートステイの受入れ制限をせざるを得ず、収入が大きく減少したことなどが大きな要因です。

現在は、新卒職員や外国人技能実習生の育成に注力しながら、夜勤者を増やしている状況です。

今後も、実習受入やの求人活動を継続するとともに、外国人技能実習生の確保と入職後の定着に向けた教育、環境整備が重要だと考えられます。

現代は多様性のある社会へと変化しており、白日会も多様な職員を受け入れることで、未来に向け長く地域に貢献できる施設運営を目指し、職員がやりがいを持ち安心して働くことができるような職場環境づくりに努めてまいります。

また、地域における公益的事業の1つ「生計困難者レスキュー事業」は6年目を経過しました。

令和6年度の相談及び支援件数は13件でした。過去5年で支援件数は若干増加傾向にあります。相談者は20～40代の若年層が9件と家庭・社会環境が多様化していることが背景にあることを感じています。行政による支援の手が届かない現物給付としてのセーフティネットとして、生活に困窮している方々の支援に社会福祉法人の地域貢献活動の一環として関わってまいります。

今後も、地域に開かれた社会福祉法人として地域貢献及び地域の課題解決に向け地域と協働で取り組んでまいりたいと考えております。

令和6年度たんぽぽ保育園事業報告

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	選ばれる施設づくり
実行計画	・ 保育所保育指針・コダーイ保育への理解を深めるため、引き続き外部講師を招いて園内研修を行い、できるだけ多くの職員が討議に参加します。 ・ 毎月の運営委員会と共に食育検討会を行い、職員同士で研鑽を深めるとともに、各年齢や発達に合わせて保育に取り入れます。 ・ 小学校、幼稚園との連携を継続し、積極的に会議へ参加し、小学生・幼稚園児との交流に参加します。
評価 (実績)	・ 保育所保育指針・コダーイ保育への理解を深めるため、福岡から年6回外部講師を招いて研修を行いました。同じ方向性を持つ三園の公開保育に、乳児、幼児クラス各1回取り組み、他園での公開保育にも参加することで、保育内容を深めることが出来ました。 ・ 月齢・年齢に合わせた食事内容を提供することで、食べやすくなり、より食べて楽しいものになっています。子どもを助ける食器具を用意できています。 ・ 幼保小中関係の研修会に主任保育士・園長が参加して連携を継続しています。

② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	・ 緊急時の保護者への連絡方法や避難場所について、入園説明会「入園のしおり」にて周知を図ります。(年1回) ・ 救急蘇生法及び事故防止に関する研修を全職員対象に行います。(年1回) ・ 火災、水害、地震等を想定した訓練を実施し、危機管理マニュアルを共有します。(月1回) ・ 不審者対応訓練を実施し、日頃より職員間で意識を高めます。(年2回) ・ 衛生管理について園内研修を行い、共通理解を図ります。 ・ アレルギー対応食の提供について、職員間で共通理解し、事故が起こらないように努めます。 ・ ヒヤリハットや事故記録の検証と分析を行い、事故発生の減少に繋がります。
評価 (実績)	・ 入園説明会にて、緊急時の保護者への連絡方法や避難場所について周知を図りました。 ・ 消防署から外部講師を招き、救急蘇生法及び事故防止に関する研修を全員が受けることが出来ています。 ・ 火災・水害・地震を想定した訓練を月1回実施し危機管理マニュアルを共有しました。被害を想定して第2避難場所への訓練も行いました。 ・ 不審者対応訓練では、職員一人ひとりの役割分担を確認し、職員がいつも通りいる時、職員が少ない時を想定して話し合いをしました。

	- アレルギー対応食提供において、調理員と保育士が共通理解をして摂食間違いがないように努めました。 - 事故、怪我あるいはヒヤリハットの報告を月1回することで、職員同士周知でき発生減少に繋がっています。今後も十分気を付けていきます。
--	---

③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	保育ニーズに合わせた一時預かり保育事業の方向性の検討
実行計画	子育てに悩んでいる保護者に寄り添った支援であり続けるために、研鑽を積みます。
評価 (実績)	- 子ども一人当たりの床面積や職員配置を 遵守しての受け入れですが、定員をオーバーして受け入れているため、一時預かりはできませんでした。 - 自主事業として子育て中の家庭を支援するための広場は年10回開き交流に努めました。広場での遊びの様子やたんぽぽ通信をホームページで発信して、より多くの人に伝えられるようにしました。

課 題	特別な支援を必要とする子どもの保育の充実
実行計画	- 特別支援教育に関わる専門機関や保健師との連携を強化します。 - 園内支援会議や保護者を交えての支援会議を行います。 - 必要に応じた職員配置とし、きめ細やかな支援をします。 - 情報を共有できる仕組みを定着させることで、全職員で共通した支援をします。 - キャリアアップ研修「障がい児保育」への派遣研修や講師を招いての園内研修を行い、職員の理解を深めます。
評価 (実績)	- 特別な支援を必要とする子どもが増加傾向にあります。気になる子どもに対して園と保健師が連携し専門機関への相談に繋がるようになりました。保護者・療育通所支援事業所・療育相談支援事業所・保育園の四者で支援会議を開き見通しをもった支援・共通理解へとなっています。最近では、親子療育に取り組む事業所もあり、必要性を感じています。 - 専門員が保育所を巡回し、職員や保護者に対しての早期発見・早期対応のための助言を行う巡回支援専門員整備事業を活用しています。

(2) 快適な住まいづくり

① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	子どもたちが安全で心地よく活動しやすい保育の環境の整備
実行計画	- 月1回の安全点検や見回りを継続し、危険箇所の早期発見に努めます。 - 倉庫、各クラスの戸棚等の環境整備活動を行います。

評価 (実績)	・ 月1回4名の担当者が園庭、遊具、外回りの安全点検を行っています。室内においては、クラス職員が点検をして安全に遊べるように環境を整えています。気づいたところは、理事長、園長、主任に報告し早急に修理しています。修理箇所が増えている現状があります。
------------	---

(3) 活力に満ちた職場づくり

① 人材の確保と定着

課 題	保育士の確保
実行計画	・ ハローワークや人材紹介所等を活用し、人材確保に努めます。 ・ ホームページを活用して、職員募集の掲載を行います。 ・ 実習生の受入れを積極的に行い、人材確保に繋げます。
評価 (実績)	・ 中学生・高校生による職場体験、施設実習を受け入れることが出来ました。実習を通して保育内容を理解していただけるように説明をしています。 ・ ハローワークや民間求人機関も積極的に活用しました。

② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	・ 雇用形態に関わらず、外部研修への参加を積極的に行い、職員全体の専門性の向上を図ります。 ・ 研修で学んだことを日々の保育に活かすことができるよう、研究グループを中心に園内研究を充実させます。 ・ チーム保育の体制づくりについて、職員間で協議を行い実践するとともに、主任、副主任を中心に経験の浅い保育士の指導、助言を行います。 ・ 外部講師を招いた実践に結びつく勉強会、わらべうた研修を計画的に取り入れ、職員間で研鑽し合います。 ・ 保護者への対応や職員間のコミュニケーション能力を高められるよう努めます。
評価 (実績)	・ オンライン研修が増え、園内で研修を受けることにより、時間を有効に使えるようになっています。研修で学んだことは報告会を設け多くの職員に伝えました。 ・ 長年経験を積んだ職員が増えていることでチーム保育の体制づくりが確立でき、お互いが専門性を磨き、高めあい子どもと向き合うことが出来ました。経験の浅い保育士への助けは継続して行っていく必要があります。 ・ 新人研修会は年10回テーマを決めて行い、又わらべうたの勉強会は、月1回行うことが出来、保育に実践しています。

③ 職場環境の改善

課 題	働きやすい環境づくり
-----	------------

実行計画	・ 園長、副園長、主任保育士が中心となって、日頃から職員に声をかけるようにし、相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、必要に応じて面談の機会を持つようにします。 ・ 協力して業務を行うことで、休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくりをします。 ・ メンタルヘルス・ハラスメント防止研修を行うことで、意識を高めます。 ・ 職員のリフレッシュに繋がる企画や、コミュニケーションを円滑にするための機会をつくるように努めます。
評価 (実績)	・ 日頃より職員に声をかけて、コミュニケーションをとるように努めています。 ・ 業務を補い合うことで休暇が取得しやすくなりリフレッシュ出来、子育て中の職員は看護休暇がとれるようになり活用できています。 ・ メンタルヘルス・ハラスメント防止として全体職員会議において周知し意識を高めています。意識していくことは常に必要だと考えています。

④ 業務の改善

課 題	担当業務の負担を軽減するための体制づくり
実行計画	・ 職員個々がワークライフバランスについて考えることで、時間内に業務を終えることができるようにします。 ・ 積極的に情報交換を行い、業務の見直しや負担軽減を図ります。 ・ リーダーを中心に役割を分担し、事務に係る時間を確保します。
評価 (実績)	・ ICT 事業の運用が始まり、日誌や各種年間計画、ヒヤリハット報告、出席・延長保育確認、保護者からの連絡等活用の幅を広げることができています。今後は個人記録に係る時間短縮につなげたいと考えています。 ・ 保護者へのお便りや連絡、あるいはその日の出来事を写真付きで送り、子どもの様子を伝えられるようになり、保護者の方にも喜んでもらっています。

(4) 安定的な経営の基盤づくり

① 収支の安定化

課 題	利用ニーズに基づく利用定員の弾力運用の継続
実行計画	・ 引き続き可能な範囲で定員の弾力化を図った受け入れを行います。 ・ 各種補助金や算定可能な加算を取得し、施設整備や職員確保に活用すると同時に、動向を模索し収支の安定を図ります。 ・ 安定的な運営のため、3歳未満時の受入れを全体の50%程度維持することを目標とします。
評価 (実績)	・ 各種補助金や加算は、可能な限り取得し、収支の安定となるように努めました。 ・ 3歳未満児の受け入れは、44%でしたが、待機児童が増えていて、全体的には定員の13%増を受け入れることが出来ました。今後も安全面に留意して、安心して預けてもらえるように細やかな対応をとり、受け入れを行っていきます。

令和6年度 特別養護老人ホーム照古苑事業報告

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	看取りケアの推進と重度化への対応
計 画	- 常に利用者及び家族の立場に立って、安心のサービスを提供し満足度を高めます。 - 看取り検討委員会の運営、看取りケアに関わる多職種連携の場（看取り後のカンファレンス）を行います。 - 人生の最終段階におけるケアに関する職員研修を実施します。 - 特定行為業務及び緊急時の対応に関する研修を実施します。
評 価 (実績)	- 令和6年度の退所者34名のうち、施設内看取りにて最期を迎えられた方が20名。ご入所者の多くが当苑での終末期ケアを望まれており、提供できています。看取り後のご家族アンケートを実施。満足度、要望の把握に努めました。「最期を迎える心の準備ができた」「満足している」という感想を頂いています。 - 令和6年度より、看取り開始時にご利用者のニーズや必要な支援を各課で把握し挙げた課題に対して、看取り委員会において、各部署がどのように支援していくか等を検討しながら支援を行いました。また、看取り後のカンファレンスでは、ご家族からのアンケートや各部署の振り返り反省点や改善点を話合うカンファレンスを実施。残った課題に対し部署を苑全体で共有しました。 - 夜間の看取り対応について、オンコール看護師と夜勤介護士のみでの体制を整備するため、不安なく支援できるようエンゼルケアの心構え、夜間対応の手順書を作成し周知徹底をおこないました。 - 介護士による特定行為業務（喀痰吸引等）研修は令和5，6年度は対象者不在で実施致しませんでした。

課 題	認知症ケアへの対応
計 画	- 認知症を理解し、ケアの質の向上を図るよう組織全体で取組みます。 - 職員研修の実施。 - 法人内認知症キャラバンメイトが講師を担いサポーターを養成します。（初任者研修で認知症サポーター養成講座実施） - 認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への派遣、及び認知症ケア専門士資格取得をサポートし、認知症ケアのレベルアップを図ります。
評 価 (実績)	- 新入職員や技能実習生への認知症サポーター養成講座を実施しました。 - 課題としては、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への計画的な派遣ができなかった事、認知症ケア専門士資格取得のサポートが必要と考えます。

② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	- 安全対策委員会で、事故について振り返りを行い、対応策の適否を検証します。再発防止のため職員間で情報共有します。 - 入所者の事故を防ぐ介護ロボット等を積極的に導入します。 - ヒヤリハットノートを活用し危険予測・介護事故予防等を図ります。 - 安全対策に関わる研修を年2回実施します。
評 価 (実績)	- 毎月各部署から報告された介護事故に対して振り返りを行ないました。繰り返しの事故や事故件数が多いものに対しては、安全対策委員会からの助言等を行いながら事故防止に努めました。 - ご利用者の重度化に伴い褥瘡のリスクや安楽な肢位の確保のためリースによる耐圧分散マットをすべての利用者へ使用することができました。さらに、ショートステイご利用者用として6床分も耐圧分散マットを準備し次期入居待機の方への備えも行ないました。 今後もベッドをはじめマット、センサー、車いすの選定の際は、介護事故の防止や安全面に考慮し各部署の助言を聞きながら選定に努めてまいります。 - 今年度の介護事故の件数においては、行政への報告が必要な感染症や骨折等の重症案件及びその他の介護事故についても減少傾向にあります。引き続き、ご利用者が安全に安心して生活していただけるよう介護事故防止への意識を高めてまいります。 - 職員研修では、「法人の事故報告・安全対策指針」「医療・介護におけるリスクコミュニケーション」をテーマに安全対策研修として年2回実施しました。

課 題	権利擁護の徹底
実行計画	- 虐待防止・権利擁護に関する職員研修を実施します。(年1回) - 不適切ケアのアンケートを実施し、結果の検討を行います。 - 虐待防止・権利擁護相談窓口の運営、マニュアルに沿った対応に努めます。
評 価 (実績)	- 今年度は法人全体のアンケート(虐待の芽チェックリスト)を年1回(12月)実施しました。不適切なケアを見たり・聞いたりしたという件数はあるものの、職員同士で注意したり、自らのケアを振り返り反省をしている意見も聞かれました。 - 職員研修では、「虐待防止法～感覚麻痺や鈍感さを生み出さないために～」 「身体拘束の廃止に向けて」をテーマに学び、意識強化を図りました。 - 今年度、照古苑(特養、ショート、デイ含む)の相談件数は0件でした。相談体制整備と研修の効果があっていると考えられます。

③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	信頼と協力を得るための情報発信
-----	-----------------

実行計画	・ ホームページの更新及び広報により、随時の見学受入れなど地域への情報発信を積極的に行います。 ・ 小中学校等との交流や介護実習体験を積極的に受け入れます。 ・ 熊本県社会福祉協議会と連携し小中学校への出前講座を行います。 ・ 社会福祉法人の公益的な取組、地域支援体制の整備の一環として、地域住民やご家族を対象とした公開講座を実施します。
評価 (実績)	・ 今年度は地域住民や家族向けに「緊急救命措置～AED 実践」「認知症サポーター養成講座」を公開講座として年2回開催しました。受講後のアンケートも大変好評でした。 ・ 生計困難者レスキュー事業は相談・支援件数13件。相談者内訳は男性5名、女性7名。年齢層は20～40代が9名、60代3名と若年層が多い傾向にありました。多様な福祉ニーズを抱えた相談事例に相談員2名で地域社会資源と連携を図り対応に努めました。新たに1名初任者研修を受講し体制整備を致しました。

(2) 快適な住まいづくり

① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	設備機器等の計画的更新
実行計画	・ 改築時の設備機器購入のために、計画的な資産積立を行います。
評価 (実績)	・ 令和6年度は、赤字決算が見込まれたため資産積立はできませんでした。

課 題	照古苑改築計画の策定
実行計画	・ 改築に関する諸条件の把握分析を行います。
評価 (実績)	・ 改築場所を選定し、県・市との開発行為協議のための測量図の作成を行いました。

課 題	施設整備等積立資産の計画的積立
実行計画	・ 施設運営に支障を来すことなく、計画的な積立を行います。
評価 (実績)	・ 令和6年度の寄付金及び施設整備積立資産資金運用による利息3,334,500円の積み立てを行いました。

(3) 活力に満ちた職場づくり

① 人材の確保と定着

課 題	人材の確保
実行計画	・ 職場体験、施設実習の受入れを行います。 ・ 高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。 ・ ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等を積極的に活用していきます。

	外国人技能実習生の計画的な採用と指導・支援を行います。
評価 (実績)	- 今年度は、施設実習の受け入れからの入職に繋げることができませんでした。 - 人材の定着に向けて新入職員及び外国人技能実習生への面談の時間を設けました。 - 新入職員の業務の進捗状況では、個人差はありますがおおむね良好です。外国人技能実習生においても、長く働きたいとの意向を持つ方もおられる一方、3年経過後の帰国や他事業所への変更を希望している方もおられます。外国人技能実習生においては、介護業務の習得と並行して日本語でのコミュニケーションの難しさなどストレスを感じながら業務を行っています。定期的に母国語（翻訳機）を使用してストレスの軽減を継続していく必要があります。 課題としては、技能実習生を指導できる職員の育成が進んでいません。担当を負担に感じる職員がいるのが現状です。介護職員の負担も考え受け入れ人数等は慎重に行う必要があります。現在受け入れている人数が限界と感じます。今後は帰国や事業所変更の希望者を把握し減少分の人員の確保が必要と思われます。

課題	人材の定着
実行計画	- 人事計画検討会議にて組織の現状把握を行い、将来を見据えた人事体制、システム構築に努めていきます。 - 階層別研修を実施します。 - 職場環境に関する職員アンケートを年1回実施し、法人内の職場環境の現状、課題を把握し、年間計画の策定、実行につなげます。
評価 (実績)	- ハラスメント相談窓口、相談対応マニュアルは既に整備済みです。 - 職員研修、初任者研修にて窓口周知。また、職員の総合相談窓口設置により、これまで相談に至らなかった内容の相談受付、対応を行いました。

② 人材の育成

課題	職員の専門性の向上
実行計画	- 認定特定行為業務従事者や介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得を施設全体でサポートします。 - 職場外の専門研修へ計画的に参加してまいります。 - 等級ごとに、介護技術を基礎とした専門性の到達目標を設けています。上司の指導・助言の下で、安心して介護技術を習得できるサポート体制を整えます。
評価 (実績)	- 新入職員及び技能実習生を対象とした初任者研修、実務者研修、介護福祉士取得のためのスキルアップ研修（18カ月）を実施しています。 - 今年度、介護福祉士国家資格を2名が取得しました。

課題	研修計画の策定
----	---------

実行計画	・ 個々の技術、経験に応じた段階的な多職種の研修計画を策定し実施します。 ・ 法人の目標、年間計画を踏まえた研修計画を策定し、課題や取組に活かせる研修運営に努めます。 ・ 各委員会と連携協力し、研修を運営します。 ・ 感染対策を図り、職員が等しく研修受講できる環境づくりに努めます。
評価 (実績)	・ 令和6年度内部職員研修は計画通り回開催することができました。オンデマンド方式(受講者が自分の都合のいい時間に録画視聴できる)やオンライン研修の活用により充実した内容と、受講率の向上が図れました。 ・ 外部研修は、特養は19回、延べ37名が受講。デイは4回、延べ5名が研修受講し、知識や専門性向上に役立てました。

③ 職場環境の改善

課 題	職員の心身の健康管理の推進
実行計画	・ セルフケア(自分自身をケアすること)の教育やリフレッシュ休暇の取得を推進します。 ・ 年次有給休暇の取得率50%を目指します。 ・ 組織全体で取組む業務や行事、照友会活動において職員相互交流の機会づくりに努めます。
評価 (実績)	・ ストレスチェックは年1回実施。集団分析結果を事業運営会議で報告しました。 ・ 有給及び休暇取得の推進は事業運営会議で毎月周知しました。年次有給休暇の取得率は全体で82.0%となりました。(照古苑83.5%、ひまわりホーム77.8%) ・ 今年度は5年ぶりに照友会による歓迎会、ボーリング大会を開催致しました。

課 題	ハラスメント防止対策の徹底
実行計画	・ ハラスメントを防止するための窓口設置、相談対応マニュアルに沿った対応を行います。 ・ 初任者を対象に窓口周知の研修を実施します。 ・ 全職員対象のハラスメント防止に関する研修を実施します。 ・ 年1回ハラスメントに関するアンケートを実施し、職員の意識付け現状の把握を行います。
評価 (実績)	・ 研修は初任者及び全職員対象の研修は計画通り実施し、窓口周知も事業運営会議にて行いました。年1回アンケートも実施。 ・ 今年度はセクハラとパワハラの2件の相談に対応。内容により外部専門機関、専門職へ相談。慎重かつ丁寧な対応を行い終結しました。 今後は、起きている事案を間接的な表現で職員への周知方法を検討します。

④ 業務の改善

課 題	I C Tを活用した介護機器等の積極的な導入
-----	------------------------

実行計画	・ ご入所者の快適な環境づくり、職員の負担軽減、介護事故の減少が図れるよう可能な範囲で、福祉用具の導入検討を行っていきます。
評価 (実績)	・ 令和6年8月から、業務ソフトがひまわりホーム同様ブルーオーシャンシステムへと変更になりました。ひまわりホームのような24時間シートを活用した記録方法ではありませんが同じソフトということで、人事異動の際にもスムーズに対応できると思います。 今後、行政への提出書類等の作成において独自の様式（有料）の作成が可能で、記録の簡素化が図れるものと思います。また、ナースコールや見守りセンサーとの連携を図ることで大幅な業務の負担軽減につながる可能性があります。

課題	時間外勤務の縮減
実行計画	・ 労働時間等設定改善委員会を開催して業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりに努めます。 ・ 事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、原因分析を行い、時間外勤務の縮減意識を高めていきます。
評価 (実績)	・ 労働時間等設定改善委員会は月1回開催。其々の部署が業務内容を精査し、無理・無駄の少ない業務改善を意識しました。 ・ 事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、時間外勤務の縮減意識を高めました。 ・ 夕食介助の人員確保のため夜勤職員（6名）の2時間の時間外がまだ継続しています。業務時間や内容の見直しにより縮減することは可能ですが、メリット、デメリットを職員が理解した上での実施が必要かと思われます。

（４）安定的な経営の基盤づくり

① 収支の安定化

課題	利用率の維持向上
実行計画	・ 入所待機者の状況把握を早い段階で行い、また、家族面談や担当ケアマネからの情報収集を行い、速やかな入所に繋がります。 ・ 医療的ケアの必要な方の受け入れ体制の検討を行います。 ・ くまもと心療病院との連携・連絡会議を月1回行い、重度の認知症の方の円滑な受入れに繋がります。 ・ 入院時は、家族の相談に応じると共に、医療機関と連携を図り、スムーズな退院、再入所の調整を図ります。 ・ 歯科医や歯科衛生士等と十分連携したうえで、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等による入院を減少させます。 ・ 短期入所は、居宅介護支援事業所との密接な連携を図り、定期的な空き情報の提供や急なキャンセルの穴埋め等により利用率の低下を防ぎます。

	・ 通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるよう、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。 ・ 居宅介護支援事業については、関係機関と積極的な連携を図ることで、新規利用者の確保に繋がります。 ・ 短期入所は、居宅介護支援事業所との密接な連携を図り、定期的な空き情報の提供や急なキャンセルの穴埋め等により利用率の低下を防ぎます。 ・ 通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるよう、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。 ・ 居宅介護支援事業については、関係機関と積極的な連携を図ることで、新規利用者の確保に繋がります。
評価 (実績)	・ 特養の平均利用者数は108.7人（定員110人）、稼働率は98.8%と、例年とほぼ横ばいでした。入所前及び入所後の入院時における他施設、医療機関との連携は円滑に図れました。入院者延べ22人中、9人が治療後に退院・再入所調整ができました。 ・ ショートステイは介護職員の離職により前年1月から利用者数制限を与儀なくされ、平均利用者数は4.01人にとどまりました。 ・ デイサービスの平均利用者数は、通所介護25.7人、現行相当1.7人でした。通所介護にあっては、前年度の30.4人から大きく利用者が減少し、赤字決算の要因の一つになりました。 ・ 介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスAは、平均利用者数8.3人、自費利用者数4.2人と昨年度より若干増加となりました。 ・ 居宅介護支援事業所は医療機関や他事業所等と積極的な連携に努め、円滑な支援調整、新規利用者確保を図りました。

課題	オムツ・尿取りパッド使用の適正な把握
実行計画	・ 排泄委員会により、オムツ・尿取りパッドの使用方法ならびに使用量を把握し、コスト低減を図ります。
評価 (実績)	・ オムツやパットについては、日中・夜間、ご利用者の排泄量等の把握を行ない選定しています。 ・ 一覧表を作成しご利用者に適したオムツ・パットの使用を徹底しコスト低減の意識を持ちながら実施しています。 ・ 新入職員や技能実習生のオムツの使用方法等の指導は、日頃のケアにあわせてメーカーの職員さんの協力を頂きながらオムツの適切な使用方法の研修も実施しています。その他の職員についても、再度オムツの適正な使用方法を確認できるようタブレット端末での動画視聴を実施しています。

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	個別ケアの推進
実行計画	・ 24時間シートについて理解を深めることができるよう、全職員がユニットケアへの共通認識を持ちます。 ・ 多職種協働による24時間シートをケアプランの更新に合わせて遅滞なく更新します。 ・ 個別ケアの充実に向けて、「本人・家族の意向」の聞き取りシート等を活用し、暮らしの継続とユニットケアの原点である個々の好み、時間に合わせた起床、排泄、食事、入浴等の実践に繋がります。 ・ 認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への派遣、及び認知症ケア専門士資格取得をサポートし、認知症ケアのレベルアップを図ります。
評価 (実績)	・ 24時間シートの見直しはケアプランの更新時に合わせて行っていますが、シート更新作成が遅れてしまうケースも見られていました。更新作成が滞ることがないように取り組んでまいります。 ・ 入居者の入れ替わりがあるたびにユニットのシステムを変更する部分が出てきましたが、入居者の介護度が高くなりユニットでも業務改善は常時必要です。尊厳を保持したその人らしい自立した日常生活を営むことができるように今後も人員配置、勤務の組み方等も見直しが必要と感じています。 ・ 新しく異動してきた職員や新人職員に対してユニットリーダーが24時間シートや個別ケアについて教育・指導を行いました。各リーダーで個別ケアを行う事も大事ではありますが育成に対してバラつきがあると感じています。異動してきた職員・新人職員に対して統一した育成ができるように人員・設備及び運営基準としっかりと指導する事が必要であると感じています。

課 題	看取りケアの推進と重度化への対応
実行計画	・ 顧客対応として相応しい態度・丁寧語を徹底し、安心のサービスを提供することで、入所者・家族の満足度を高めます。 ・ 看取り検討委員会の設置運営、看取りケアに関わる多職種連携の場（看取り後のカンファレンス）を行います。 ・ 看取りケアに関わる職員研修を実施します。 ・ 職員の採用時に介護等マニュアルを配布し説明を行い、職員が統一したケアに取り組みます。 ・ 看取り体制を検討し、改善・整備に努めます。

評 価 (実績)	- 令和6年度の退居者8名のうち、施設内の看取りで最期を迎えられた利用者は3名(他は体調変化による入院退居となった利用者が3名、ADL改善で要介護3から要介護1になり在宅復帰となった利用者が1名、急変による死亡退居が1名)でした。看取り対応については、日勤帯だけでなく夜間帯においてもご家族と施設で緊密な連携を実施し、穏やかな最期を迎えていただくお手伝いをすることができました。 - 令和6年度は看取り対応のご利用者は多い時には10名おられました。ケアの質の向上をあげるため、多職種連携、情報の共有、見取り後の振り返り、ご家族のアンケートを実施し、ご利用者・ご家族が満足して頂くケアに勤めてまいりました。 - 特定行為業務認定講習会については、令和6年度は職員の派遣ができませんでした。次年度は、講習会の参加や緊急時の体制を強化できるよう体制を整えたいと考えています。
-------------	--

② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	- 安全対策委員会で、前月の事故について振り返りを行い、対応策の適否を検証します。 - 類似の事故が起こらないよう職員間で情報共有します。 - 引き続き安全対策の全体研修を実施します。 - 入居者の事故を防ぐ介護ロボット等を積極的に導入します。 - 安全対策に関わる研修を年2回実施します。
評 価 (実績)	- 職員研修では、安全対策に関わる研修を年2回実施。介護施設等における安全管理・リスク予防対策、身体拘束の適正化等、実施業務に関連する内容の講義を実施しました。 - ひまわりホームで一番多い事故報告では皮下出血でした。ほんの少しの衝撃や圧力によって皮下出血としてあざができてしまうのが原因と考えられますが、はっきりとした原因が分からず不明な事が多くあっています。原因分析、対策が課題であると考えています。 - リスクマネジメントは日々の業務や研修、会議などで取り入れ、申し送りノート、報告書の確認を周知し対策の徹底を行いました。高齢者の事故は、些細なものでも後遺症が残る可能性もある為生活に大きく影響を与える事を考え事故を発見した時にはご家族にも速やかに報告し情報共有を行いました。

課 題	権利擁護の徹底
実行計画	- 福祉施設職員としての倫理観、福祉理念を理解し浸透させるため、虐待防止・権利擁護について全職員を対象とした職員研修を行います。 - 不適切ケアのアンケートを実施し、各部署において結果の検討を行います。 - 各部署において、実際のケアを振り返り、虐待になっているのではないかと考えられる事例を取り上げて検討し、権利擁護に関する意識強化を図ります。 - 虐待防止・権利擁護相談窓口の運営、マニュアルに沿った対応に努めます。

評 価 (実績)	・ 新人職員を対象とした身体拘束廃止、虐待防止の研修と全職員を対象として虐待防止（権利擁護）マニュアルの周知も実施しました。また不適切ケアが行われていないかを確認するための虐待の芽チェックリストを実施し日頃のケアの振り返りを行い、職員全員が意識強化を図りました。 ・ ひまわりホームでは、声掛け、ケアの仕方で不適切なケアと思われる事案が報告されました。再発防止のため全職員への注意喚起、研修、レポート提出、役職者による一般職員への指導・教育を行いました。 ・ 毎月行うリーダー会議では権利擁護の徹底を管理者より繰り返しユニットリーダーへ伝えることで意識強化を図りました。
-------------	---

③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	地域における公益的な取組の推進
実行計画	・ 地域の老人会、婦人会、民生委員、子供会などへの利用を促していきます。 ・ 法人公益的取組の1つである公開講座の開催や、交流スペースを地域住民が活用して頂けるよう発信し、関係機関とも連携を図ります。 ・ 開かれた施設づくりの1つとして、地域住民や家族のご意見等を頂き、広報誌の作成に努めます。
評 価 (実績)	・ 認知症カフェ「ひまわり」は感染予防の観点から飲食を伴う外部の方の施設利用を控えたこともあり、提供はありませんでした。 ・ 公開講座については、OJT 研修と一緒に年2回外部の方をお招きし開催することができました。 ・ 月1回の広報誌の作成と配布について実施することができました。ご家族のアンケートでは広報誌を楽しみにしているというお言葉も頂いています。

(2) 快適な住まいづくり

① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	適切な機器の更新と住環境整備
実行計画	・ 入居者及び家族の意向を把握し、入居者の暮らしが豊かになるよう、施設設備の点検及び更新をします。
評 価 (実績)	・ 定期的に施設の機器の点検を実施し必要物品の更新や点検を実施し今年度は施設内のパソコン・電話機・IP 電話・アンテナ増設工事を行いました。まだ電波の状況により音声が入りにくい場所がありますので、改善を行ってまいります。入居者の状態変化により車いすを変更する時には、機能訓練士（理学療法士）の助言をしていただきながら変更を行いました。住環境整備では、トイレ便座・ベッドブレーキやキャスターの劣化による破損があり交換を行いました。今後も定期的に施設設備の点検、及び更新を適宜行っていく予定です。

課 題	備品等整備積立資産の計画的積立
-----	-----------------

実行計画	・ 無理のない範囲で、着実な積立に取り組みます。
評価 (実績)	・ 大きな赤字決算が見込まれたため、資産積立を行うことはできませんでした。

(3) 活力に満ちた職場づくり

① 人材の確保と定着

課 題	人材の確保
実行計画	・ 職場体験、施設実習の受入れを行います。 ・ 高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。 ・ ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等を積極的に活用していきます ・ 外国人技能実習生を計画的に採用していきます。ます。
評価 (実績)	・ 職場体験、施設実習受入れは感染対策を行った上で行うことが出来ました。 ・ 高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知することができました。 ・ ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等も積極的に活用しました。また、職員からの紹介も広く募ることで人材の確保に努めています。 ・ 令和6年度は3名の外国人技能実習生の受け入れを行い、担当職員による適切な指導を行うことができました。 ・ 令和4年度に受け入れを行った技能実習生2名（ベトナム）は職員のサポートを受けながら夜勤業務も行えています。

課 題	人材の定着
実行計画	・ 人事計画検討会議にて組織の現状把握を行い、将来を見据えた人事体制、システム構築に努めていきます。 ・ 階層別研修を実施します。 ・ 職場環境に関する職員アンケートを年1回実施し、法人内の職場環境の現状、課題を把握し、年間計画の策定、実行につなげます。
評価 (実績)	・ 人事計画検討会議にて組織の現状把握を行い、将来を見据えた人事体制、システム構築に努めることができました。 ・ 職場環境に関する職員アンケートを年1回実施し、法人内の職場環境の現状、課題を把握し、年間計画の策定、実行に繋げることができました。

② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	・ 認定特定行為業務従事者や介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得を施設全体でサポートします。

	・ 職場外の専門研修へ計画的に参加してまいります。 ・ 等級ごとに、介護技術を基礎とした専門性の到達目標を設けています。上司の指導・助言の下で、安心して介護技術を習得できるサポート体制を整えます。
評 価 (実績)	・ ユニットケア施設管理者研修に1名参加しました。介護支援専門員の資格取得者はいませんでした。令和8年介護福祉士国家試験に向け令和6年度から毎月2回業務時間内でスキルアップ研修参加を支援しています。 ・ 職場外の専門研修はオンラインやオンデマンド受講が主流となり自宅からでも施設のクラウドサイボウズを使用し職員のライフスタイルを考え視聴期間中であればいつでも研修を受けられるように環境を整えています。 ・ その他新人職員や技能実習生には認知症介護基礎研修を業務中に受講しました。技能実習生は役職者から指導を受け初級試験には合格し『利用者の状態像に応じた介護を適切に提供できる技能』を習得しました。

③ 職場環境の改善

課 題	職員の心身の健康管理の推進
実行計画	・ セルフケア（自分自身をケアすること）の教育やリフレッシュ休暇の取得を推進します。 ・ 年次有給休暇の取得率50%を目指します。 ・ 照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションの開催を支援します。
評 価 (実績)	・ ストレスチェックは年1回実施し、また職場環境に関するアンケート調査も実施しました。その集計結果から課題を把握し、改善策を話し合うことができました。今後の運営につなげていきたいと考えています。 ・ 事業運営会議等で有給休暇、休暇取得の推進を周知しました。令和6年度も目標を上回る77.8%の取得率をあげています。 ・ 令和6年度は感染対策を行ったうえで照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションを開催することができました。

課 題	ハラスメント防止対策の徹底
実行計画	・ ハラスメントを防止するための窓口設置、相談対応マニュアルに沿った対応を行います。 ・ 初任者対象に窓口周知の研修を実施します。 ・ 全職員対象のハラスメント防止に関する研修を実施します。 ・ 年1回ハラスメントに関するアンケートを実施し、職員の意識付け現状の把握を行います。
評 価 (実績)	・ 令和2年度に窓口開設と対応マニュアルの整備を行いましたが、ハラスメントに対する意識強化を図る観点より、事業運営会議にてハラスメントの防止、ユニット内での意見交換及び窓口への相談勧奨等、周知徹底を行いました。

	・ ハラスメントに関する職員研修（全員対象）、アンケートも実施しました。初任者対象には、別に窓口周知等の研修を行いました。 ・ 相談窓口担当者で定期的な打合せ、情報共有に努め、相談員としての質の向上のため研修受講も行いました。
--	--

④ 業務の改善

課 題	I C Tを活用した介護機器等の積極的な導入
実行計画	・ 職員の負担軽減に繋がるような介護ロボットやI C T介護機器類など導入する機器の検討を行います。
評 価 (実績)	・ 令和6年度は、赤外線センサー、インカムを導入しました。また、見守りセンサーのデモを短期間ではありますが試験的に実施しました。インカムは各ユニット1台導入しましたが、令和7年度には各ユニット内にインカム台数を増やし職員間でも連携が取れるように環境整備を行っていきます。ICT 技術を取り入れるメリットは作業効率がよくなりケアの質が向上することだけでなく、人材不足の解消も図れ、職員の負担軽減に繋がると考えています。しかし介護機器に苦手意識や難しいと考えるを持つ職員に対して機器を使いこなす一定のスキル向上への説明や定期的な確認が必要と考えています。

課 題	時間外勤務の縮減
実行計画	・ 業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりに努めます。 ・ 原因分析を行い、時間外勤務の縮減意識を高めていきます。
評 価 (実績)	・ 労働時間等設定改善委員会は月1回開催。それぞれの部署が業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場作りを意識しました。 ・ 事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、時間外勤務の縮減意識を高めました。

(4) 安定的な経営の基盤づくり

① 収支の安定化

課 題	利用率の維持向上
実行計画	・ 入居待機者の状況把握を早い段階で行い、また、家族面談や担当ケアマネからの情報収集を行い、速やかな入居に繋がります。 ・ 医療的ケアの必要な方の受け入れ体制の検討を行います。 ・ くまもと心療病院との連携・連絡会議を月1回行い、重度の認知症の方の円滑な受入れに繋がります。 ・ 感染症対策を徹底し、感染症を予防し、入居者の感染症による入院を減少させます。 ・ 歯科医や歯科衛生士等と十分連携したうえで、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等による入院を減少させます。

	・ 短期入所は、居宅介護支援事業所との密接な連携を図り、定期的な空き情報の提供や急なキャンセルの穴埋め等により利用率の低下を防ぎます。 ・ 通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるよう、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。
評価 (実績)	・ 令和6年度は特例利用（以前入居されていたご利用者が入院などの理由で退居されたのち、加療終了後3ヶ月以内で施設に戻ることができた際に、ショートの入居1室を入居として取り扱うことができる利用方法）があったことで稼働率は100%を超えることができました。入居経緯内訳は、在宅4名、病院1名、有料老人ホーム1名、グループホーム1名でした。そのうち、ショートステイを利用してスムーズに入居になられた方は3名でした。早めの調整を行うことで速やかな入居調整に繋げることができました。 ・ 令和6年度、新規入居者で医療的ケアが必要な方の受入れはありませんでしたが、今後も透析、褥瘡や糖尿病など医療的ケアが必要な方の受け入れの検討を行ってまいります。 ・ 照古苑、ひまわりホーム、くまもと心療病院をZOOMで繋ぎ、連携会議を行うことが出来ました。今後もスムーズな入居調整のため連携を図っていきたいと考えています。 ・ 感染対策を徹底しておりましたが、入居者より新型コロナウイルス感染症の罹患者が数名発生しましたが入院されることなく、施設にて療養されました。今後も日常の健康管理、感染予防に努めてまいります。 ・ 協力医療歯科機関との連携・調整はできました。入居者29名中半数程度の方は協力医療歯科機関より口腔ケアを受けられています。また介護職員による毎日の口腔ケアを実施しており、誤嚥性肺炎予防にもつなげることが出来たと考えています。令和6年度に肺炎（誤嚥性）で入院されたご利用者は2名で、前年度と変わりませんでした。 ・ ショートステイの稼働率は目標の77%を超える事が出来ました。今後もショートの稼働率アップと入居への速やかな調整を行うために次期入居決定者のショート受け入れを考えています。 ・ 通所介護について、利用率の低迷から令和6年10月から定員を30名から18名の地域密着型へ移行しましたが、1月のインフル・コロナの感染拡大に伴い、利用者数を伸ばすことはできませんでした。利用者定員が少なくなり、利用者1名に対する職員の割合が大きくなっているため、今後、職員の適正な配置を検討します。 健康増進はもとより、感染症の蔓延防止の為に早めの受診を促す等、安定した地域密着型通所介護の運営に努めます。

課題	オムツ使用の適正な把握
実行計画	・ 排泄委員会を設置し、オムツの使用法の適正化を図ります。 ・ オムツの使用量を把握し、コスト低減を図ります。

評 価 (実績)	・ ユニット会議にて尿取りパットや紙おむつの適正サイズ、必要に応じて尿測を行い適正な排泄道具の選定を検討・評価を行い変更し実施しました。リフレ担当者より新人職員や技能実習生対象にオムツの正しい当て方、紙オムツ・パットの選定の仕方と基礎研修を実施しました。排泄技術向上や意識付けを行い、漏れを無くすことでコスト削減に繋がると思います。今後も物価高騰も考えられる事からコスト削減への定着化に向けて継続していきます。
---------------------	---

令和6年度 宇土市地域包括支援センター事業運営計画

事業内容
(1) 総合相談支援事業 (2) 権利擁護事業 (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業 (4) 地域ケア会議推進事業 (5) 認知症地域支援・ケア向上事業 (6) 認知症サポーター養成事業 (7) 認知症高齢者見守り事業 (8) 認知症初期集中支援推進事業 (9) 生活支援コーディネーター事業 (10) 在宅医療・介護連携推進事業 (11) 介護予防マネジメント事業・指定介護予防支援事業総合相談支援事業
重点取組事項
○ 認知症支援のニーズの高まりに伴い、相談窓口の周知及び支援者育成に取り組みます。 具体的には、従来の認知症サポーター養成講座の拡充、市が取り組むアクティブチーム立ち上げの支援を行います。 ○ 少子高齢化が加速する中、人とのつながりの希薄化、価値観の多様化等を背景に、相談内容も8050問題をはじめ、複合的な課題を抱える世帯が増えており、包括支援センターのみでは対応ができなくなっています。これまで以上に積極的に多職種、他機関と連携支援を積み重ね、重層的支援体制整備を見据えた情報発信をすすめていきます。

事業別の具体的な取組事項

1 包括的支援事業

(1) 総合相談支援事業

取組事項①	地域におけるネットワーク構築 ※対象者を気にかけ、何かあれば相談しようという意識の向上を目指す
内容	・ 地域におけるさまざまな関係者のネットワークの構築を図ります。 ・ 講演を通して、地区での周知啓発活動を行います。 ・ 個別のケース会議を通して、地域の個人のネットワーク構築を図ります。
実績	・ 地域団体(民児協、公民館長会、老人会総会、婦人会長会、商工会等に訪問)に啓発。老人福祉センター利用者、老人会のレインボーマルシェやお元気クラブ、つながる広場(宇土市・西部老人福祉センター)で啓発。 ・ 70歳と75歳の交付式で毎月啓発。 ・ 講演活動は5件(老人センター講義、走湯食堂、宇土・網津公民館成人講座、中央民協)実施。 ・ 個別ケースでは延べ19件の対応 ・ 地域密着型サービス事業所運営推進会議参加(25回) ・ 宇土市交番連絡協議会へ参加し高齢者の総合相談窓口として啓発

取組事項②	実態把握
内容	・ 上記で構築したネットワークを活用するほか、様々な社会資源との連携、高齢者世帯へ個別訪問、同居していない家族や近隣の住民から情報収集により高齢者や家族の状況等について把握します。
実績	・ 必要時に実施し、個別ケースにおいて延べ47件の対応 ・ 老人福祉センターと奇数月に定例会を開催し情報収集し把握。老人福祉センターの利用者で気になる高齢者の情報の共有を図り、サービス支援や見守り体制の検討を行なう。相談ケースの協力機関への照会・情報収集・支援依頼、協力機関からの困難事例の情報提供、支援依頼等を行っている。

取組事項③	総合相談支援
内容	・ 様々な相談を受け、十分なアセスメントをベースに、丁寧に状況分析を行います。 ・ 相談内容に即したサービスまたは制度に関する情報提供、関係機関の紹介等を行います。 ・ 市民や地域組織団体に広く相談窓口の啓発を行います ・ 協力機関と地区に応じた支援体制を構築します。
実績	・ 随時実施し、個別ケースにおいて延べ1833件の対応 ・ 窓口啓発は、ネットワーク構築とセットで実施 ・ 協力機関とは5月・7月・9月・1月・3月に連絡会議実施 ・ 重層的支援活動の活用：ケース1件

	協力機関で実態把握中の介入困難事例の相談があり、包括内でも共有し助言を行った。その他、路肩で気分不良の方を対応した事案や、緊急搬送までは至らない方への、対応方法等を共有した。 ・ 協力機関ヒアリングを実施（11/20 ブランチ本町、11/21 ブランチ西部）
--	--

取組事項④	保健福祉サービス等の適用調整
内容	・ 主要な保健福祉サービスの相談に対して、手続き支援を行います。 ・ 介護支援専門員連絡会等で啓発を行います。
実績	・ 申請件数：263 件。（内訳：介護保険 236 件、総合事業 15 件、食の自立支援 4 件、緊急通報装置 5 件、おむつ給付 3 件） ・ 介護手当申請の様式変更があり、介護支援専門員連絡会で啓発している。
考察	相談件数はコロナ明けからは横ばいであるが、対応時間と関わる人員（複数・チーム対応）は増加している。要因としては、キーパーソンや支援者不在といった家族力の脆弱化や人間関係の希薄化が大きい。特に独居の認知症の人や 8050 問題に該当する人達、障がい者と高齢者世帯で交友関係が希薄な人たちの相談事は、表面化するまでに時間が経過して問題がより深刻である。 相談経路としては家族が多いが、医療機関や行政等も増えており、啓発の効果と感じている。相談内容としては介護に関することが最も多く、認知症関連が続く。最近は本人からの相談も増えてきており、独居で身寄りがいない人や子供に迷惑をかけたくない人が今のうちから施設や将来の準備を積極的に考えている、しっかりした高齢者からの相談もあがっている。 ケースの特徴としては、本人、家族、親族に困り感がなく支援が進まないケース、末期がんで在宅希望、認定が出る前に退院となるケース、認知症の対応や介護に疲弊した家族が入院や施設入所をすぐに要求するケース、若い頃から精神疾患を有し、擁護していた親や兄弟が死亡あるいは高齢になり支援できなくなり問題が表出したケースなどがあり、これに加えて経済的な問題と課題が多岐に渡り、他機関との連携強化が重要となる。 本来は家族がすべきこと、家族でしかできないことを第 3 者（隣人や区長・民生委員等）に求めたり、公的機関に要求されることが多々あり、今の制度だけでは補えない部分を誰が、どこが、どこまで担うのか、特に身寄りのない人の処遇に関する課題は今後、さらに増加すると思われる。組織や制度として何かできないものかと思うところである。相談件数だけでは評価できない煩雑さがあり、協力機関の相談内容も同様の傾向があり、協働して支援するケースも増えている。 支援する中で特に困り感・問題意識がなく、判断力の低下を疑う人が、一般的に不適切と思われる生活の継続を望む人の自己決定権の尊重やそれと裏腹に「何とかして」と施設入所を望む地域住民の要請。包括支援センターの介入時、すでにごみ屋敷や崩壊寸前になっているなどのケース対応において、互いの尊厳を考慮しつつ、それぞれの思いに寄り添いながら一つ一つの事例を通して、理解を深めつつ、地域からの早期発見の方法や地域の発信力を高めてもらうような包括支援センターの啓発の在り方も課題であ

	る。世帯で課題がある場合に新たに重層的支援が動き出したが、目下、情報の共有が主で実働はこれまでと変わらず、より専門的な対応（例えば弁護士や医師等のメンバーによるプロジェクトチーム）を考える時期に来ていると思われる。医療機関との連携においては、ソーシャルワーカーによって退院支援の動き方にも差があり連携の難しさを感じるところがある。本人の退院後の生活を思い描いた在宅支援の働きかけや、今後も顔の見える関係を重視した連携が必要と感じている。
--	---

（２）権利擁護事業

取組事項①	成年後見制度の利用促進
内容	・ 包括支援センターの啓発時に成年後見制度の周知を行います。 ・ 成年後見制度の必要性や申立てについて、関係機関や関係者と調整を図ります。また、親族申立てが困難な場合は必要に応じて、市長申立てを高齢者支援課と検討、調整します。
実績	・ 対応件数：23 件 ・ 認知症があり金銭管理等の課題がある方への成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の説明や会議を実施し、制度の必要性や対応についての検討をした。必要に応じて成年後見センターとの連携を実施。 ・ 居宅介護支援事業所からの依頼があり、同行訪問をして成年後見制度の説明を実施。

取組事項②	老人福祉施設等への措置の支援
内容	・ 高齢者虐待等の場合で、高齢者を老人福祉施設等へ措置入所させることが必要と判断した場合は市と協議しながら、必要に応じて措置入所の支援を行います。
実績	・ 対応件数：1 件（8/3 K氏） ・ 措置入所の支援から措置解除までの支援を実施。

取組事項③	高齢者虐待への対応
内容	・ 包括支援センターの総合相談窓口啓発時に、高齢者虐待の相談窓口の周知を行い、早期発見、通報に繋がるようにします。 ・ 高齢者虐待の事例を把握した場合は、速やかに高齢者支援課と連携し、当該高齢者を訪問して安全・事実確認等、措置を講ずるとともに、背景要因を確認後、関係機関と協議しながら対応します。また、養護者支援も並行して行います。
実績	対応件数：226 件 ・ 70 歳・75 歳交付式等で包括支援センターの啓発の際に高齢者虐待通報について周知啓発。 ・ 7 月の介護支援専門員連絡会で令和 5 年度に居宅ヒアリングを行った結果の報告を実施。引き続き対応への協力を依頼。 ・ 11 月に住民向けの権利擁護研修会（アンガーマネジメント）を実施。 ・ 2 月、3 月にかけて居宅ヒアリングを実施した際、利用料滞納等から経済的虐待対応の必要性があることを伝え、気づきの視点を強化できるよう周知した。

	・ 高齢者支援課と連携して虐待の解消に向け、関係者を含め会議を実施した。 ・ 養護者支援のために社会福祉協議会のうと自立相談センターと連携し、同行訪問をした。
--	--

取組事項④	困難事例への対応
内容	・ 困難事例の相談を受けた場合は、複数の職員で訪問し状況を確認します。対応については、センター内で検証し各機関と連携をしながら支援していきます。
実績	対応件数：288 件 ・ 課題の多い世帯については本人だけでなくその家族の支援者との連携を密にとりながら支援を実施。 ・ 身寄りがいない方への支援、家族の介護力が低い方への支援など関係機関や制度に繋ぎ、ともに見守る支援を実施。

取組事項⑤	消費者被害の防止
内容	・ 消費者被害を未然に防止するため、消費者センター等からの情報把握に努め、必要な機関等へ情報共有を行い、住民への周知を図ります。
実績	対応件数：3 件 ・ 居宅支援事業所の介護支援専門員から消費者被害での報告があり、居宅支援事業所・小規模多機能型居宅介護支援事業所へメールで情報提供。
考察	高齢者虐待の未然防止や予防について、住民へ高齢者虐待の知識を伝えるだけでなく、介護のストレスの向き合い方としてアンガーマネジメント研修を実施した。介護する際のイライラへの心構えや工夫を行うことが高齢者虐待や権利侵害の軽減に繋がったのではないかと思います。今後も高齢者虐待は身近な問題として住民の方が理解しやすいような研修会や説明等に心がけたい。 高齢者虐待対応では介護支援専門員からの通報が一番多く、介護支援専門員の協力が必要とするケースでは、包括支援センターと介護支援専門員の連携について苦慮することも多くあった。今後も高齢者の権利を優先し、関係機関と連携して対応していきたい。そのためには、介護支援専門員の協力を得ることができるよう虐待対応への理解を促す動きは必要と思われる。また、易怒性・攻撃性があると思われる養護者や訪問拒否をされる養護者への介入については高齢者支援課と対応方法の検討を重ね慎重に対応をした。今後は警察との連携の仕方や介入依頼をすることを想定し、動き方を確認する必要がある。その他、施設費用や病院代滞納から経済的虐待として関わるケースが複数あり、介護事業所や医療機関にも経済的虐待の視点をもって相談をもらえるよう啓発をしていく必要を感じる。様々な虐待ケースに係わる中、包括内の3職種が世帯の持つ課題を高齢者や高齢者を取り巻く環境から虐待の背景を分析する視点を持ち、虐待解消に向けた計画を立てて対応することができている。また、高齢者支援課とも随時相談して対応することができていた。しかし、虐待対応の終結までには時間を要することが多いことや対応の困難さを実感しているので、今後は虐待対応の終結後にケースの振り返りを行い、課題などを共有することで次のケースに活かせる仕組みも必要ではないかと考える。

	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業への支援において、介護支援専門員の相談が数件あり制度の周知ができつつあり、判断能力が心配な方や低下した方への介護支援専門員の意識が変わりつつあるのではないかと考える。関わりとしては、ケースに応じて複合的な課題があるものや早急な対応が必要な場合など社会福祉協議会の成年後見センターへの相談や連携が出来た。今後も複数の課題を有する場合は様々な機関と早めの連携を図る必要性を感じる。
--	--

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

取組事項①	包括的・継続的なケア体制の構築
内容	・ 介護保険サービス以外の地域における様々な社会資源を活用できるように地域連携・協力体制を整備します。 ・ 多職種参加の事例検討会の開催、顔の見える関係作りを行います。 ・ 民生委員と介護支援専門員の関係構築を支援します。
実績	・ 個別ケースや介護支援専門員連絡会において社会資源の紹介を行った。また、必要時に連携体制が取れるように市役所や包括支援センター、認知症地域支援推進員、認知症疾患医療センター、成年後見支援センター、宇城地域リハビリテーション広域支援センターあさひコート、地域密着リハビリテーションセンター金森医院・景雅苑の担当者及び内容について紹介。

取組事項②	地域における介護支援専門員のネットワークの活用
内容	・ 地域の介護支援専門員の日常的な業務の円滑な実施を支援するために、介護支援専門員の相互の情報交換等を行う場として居宅介護支援事業所・包括連絡会の活用をします。(毎月開催・事例検討会年4回)
実績	・ 個別ケースや居宅介護支援事業所・包括連絡会において情報交換、相談対応を実施。 ・ 包括の各種事業関連情報(認知症ケアパス、医療連携窓口一覧表、多職種連携マニュアル、入退院ガイドブック)の紹介と消費者被害の共有、高齢者虐待対応についての通報や対応協力の依頼を行う。 ・ 各居宅介護支援事業所へ地域ケア会議の協力依頼。 ・ 認知症高齢者等 SOS ネットワーク事業の協力依頼。 ・ 各事業の研修会のご案内「認知症サポーター養成講座」「認知症サポーターステップアップ研修」「高齢者介護とアンガーマネジメント」「宇城圏域在宅医療 人生会議」「熊本県介護支援専門員協会主催 適切なケアマネジメント手法の理解と実践」「包括主催 適切なケアマネジメント手法を活かしたケアマネジメント」 ・ 社会資源の情報発信(労災施設の概要説明、研修会等での活用を提案) ・ 要介護、要支援認定者の受け入れ状況の確認。 ・ 令和6年2月～3月にかけて宇土市の居宅介護支援事業所に居宅ヒアリングを実施。内容の取りまとめと市への提案事項、連絡会で情報共有、周知。

取組事項③	日常的個別指導・相談
内容	・ 地域の介護支援専門員に専門的見地から個別指導、相談への対応を行います。 ・ 地域の介護支援専門員の資質の向上を図る観点から事例検討会や研修会の実施、制度や施策等に関する情報提供を行います。
実績	対応件数：延べ 371 件 ・ 委託先の介護支援専門員へ通所介護・訪問介護の現行利用についての相談対応、担当者会議参加。 ・ 介護支援専門員連絡会にて事例検討会 4 回実施。自立支援の視点への助言を行う。 ・ 熊本県介護支援専門員協会主催の研修会「適切なケアマネジメント手法の理解と実践」の啓発、10 月に包括支援センター主催の研修会「適切なケアマネジメント手法を活かしたケアマネジメント」の実施 ・ 介護予防支援の指定申請について、直接担当となる居宅介護支援事業所からの質問や意見交換ができるよう高齢者支援課と打ち合わせを行い説明会での共有を行った。

取組事項④	支援困難事例等への指導・助言
内容	・ 地域の介護支援専門員が関わる支援困難事例について、適宜、地域包括支援センターの専門職や地域の関係者、関係機関との連携の下で、具体的な支援方針を検討し、指導助言等を行います。必要時には、個別ケア会議開催の支援を行います。
実績	対応件数：延べ 121 件 ・ 地域の介護支援専門員への相談支援やケースに応じて一緒に具体的な支援方針を検討し対応した。 (対応事例) ・ キーパーソン不在 ・ 本人に認知症があり、介護者の介護力不足や判断力不足があり夫婦単位で介入を必要とする ・ 過度な要求をする家族への対応 等
考察	・ 熊本県介護支援専門員協会主催の研修会「適切なケアマネジメント手法の理解と実践」の啓発を各居宅介護支援事業所に行い、10 月に包括支援センター主催の研修会「適切なケアマネジメント手法を活かしたケアマネジメント」を開催した。今回は宇土市外の委託の居宅介護支援事業所にも案内を出し、合計 35 名の参加があった。タイムリーな研修内容に興味関心の高さがうかがえた。アンケートの結果からも適切なケアマネジメント手法を活用していきたい、もっと知りたいといった意欲的な感想が多くみられた。居宅介護支援事業所からも「他の居宅介護支援事業所との交流や集まりをしたい」との声も出ており、顔の見える連携を強める意味でも来年度も集合型の研修会にしたいと考えている。 ・ 支援困難事例では、本人が認知症や精神疾患等を抱えており夫婦単位で支援が必要な方、キーパーソンが不在もしくは過度な要求をしてくる家族への調整に時間がかかるケース等への対応が多かった。今後もこのようなケースは増加してくると思われるため引き続き介護支援専門員への助言や継続的な支援を行っていきたい。

	・ 毎月の居宅介護支援事業所・包括連絡会では社会資源等の最新情報の発信、各種事業関連情報の発信の場に活用できている。代表会の時間を介護支援専門員同士が気軽に意見交換（包括支援センター・高齢者支援課への要望、業務をする中での悩み、迷いなどを話し合える）できる有意義な場になるよう仕組みを作っていきたい。 ・ 令和7年2月～3月にかけて居宅ヒアリングを実施した。今の居宅介護支援事業所の現状を共有し高齢者支援課への提案事項、連絡会での周知を行うことで再確認でき有益な機会につながったと思う。
--	--

（４）地域ケア会議推進事業

取組事項①	個別ケースの検討
内容	・ 自立支援型地域ケア会議の開催（第3水曜） 多職種が協働して高齢者の自立支援・重度化防止に向けた助言を行います。 ・ 地域ケア個別会議 複合的な課題を有する高齢者の事例について、多職種が協働してその問題解決方法を検討します。
実績	・ オンラインにて毎月開催できている。 ・ 自立支援型地域ケア会議：22 事例 ・ 地域ケア個別会議：0 事例 ・ 地域ケア会議へ参加しての感想・取り組み事項の報告、取り組み結果報告を受けて評価まで行っている。取り組み事項に不足があれば助言をして再提出を依頼している。

取組事項②	ネットワーク構築
内容	・ 地域ケア会議に参加する専門職と介護支援専門員のネットワークを構築します。
実績	・ 宇城地域リハビリテーション広域支援センターあさひコート、地域密着リハビリテーションセンター金森医院・景雅苑、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、生活支援コーディネーター、主任介護支援専門員、認知症患者センターから助言を頂いている。今回、地域ケア会議のアンケート調査を行った。オンラインでの開催で多職種とのネットワーク構築ができているのか心配されたが、アンケート結果から「多職種のネットワークが広がった」と答えた方が37名中10名いた。

取組事項③	個別ケースの課題分析等による地域課題の抽出
内容	・ 地域ケア全体会議（年1回） 地域ケア会議で検討した事例から、地域の課題の発見・抽出・地域づくり・新たな社会資源の開発を検討します。
実績	・ 毎月提出される事例毎に、担当の介護支援専門員が考える地域課題、助言者が考える地域課題を抽出してるが、今年度は提出された事例から明確な課題抽出ができなかった。ただ、介護支援専門員の自立支援の視点や病気の視点、ACP の視点不足が感じられた。

取組事項④	生活支援コーディネーター等の多様な関係者と連携し、地域課題の共有及び地域資源形成の検討
内容	・ 地域ケア会議で抽出された地域課題について、生活支援コーディネーターと情報を共有し、課題解決に向けた会議に参加し地域資源の検討を行います。
実績	・ 毎回会議に生活支援コーディネーターが参加し、情報共有している。 ・ H30 年度から地域課題を抽出。年 1 回の全体会（行政主導）で課題について検討を行っている。移動支援についてはのりのり号（デマンドバス）、送迎のある老人センターの利用案内、ACP の活用について介護支援専門員に周知・啓発を行っている。
考察	今年度は事例を提出する介護支援専門員に地域ケア会議についてアンケート調査を行った。その中で地域ケア会議の事例資料作成に負担感を感じている（大変感じている、やや感じている）が 82%であったが、会議で受けた助言内容については「大変参考になった」と「少し参考になった」で 91%を占めた。 会議の雰囲気はとても良いので、アドバイスをもらう方も素直に頭に入りやすく、まとめて頂けるので再確認しやすい。また多職種から助言をもらえる為、より良いケアマネジメント支援につながると感じた。医療の知識が足りないと感じたので、今後、医療職・多職種との連携も心掛けてマネジメントをしたい、等の意見を頂いた。会議の目標としている自立支援の視点向上については「自立支援の考え方が変化」「ケアプラン等の目標の設定の考え方が変化した」にも一定数の回答があり効果があったと判断している。 オンラインになってからの多職種とのネットワーク構築について心配していたが「広がった」と回答を頂いた。地域ケア会議に事例を提出すると、それ自体は負担になるが、気づきが多く、有益な会議ととらえてもらっていると感じた。 課題抽出につて、今年度は提出された事例から明確な課題抽出はできなかったが、介護支援専門員の自立支援の視点や病気の視点、ACP の視点不足が感じられた。次年度も各事業担当者と連携し介護支援専門員の資質向上の研修会を開催していく。課題抽出については、地域ケア会議終了後、助言者と課題について確認する時間を設けて検討していく。 また、予防から地域へ戻ったときにも使用できる共通ツールは必要と感じているので、関係機関と連携し検討していく。開催方法として、オンライン会議での開催だけになっているが、人材不足の中での拘束時間を考えると今後もオンラインでの開催継続予定。

（５）認知症地域支援・ケア向上事業

取組事項①	認知症の人を支援する関係者の連携を図る
内容	・ 一般市民に向けた普及・啓発として、認知症予防講座等の開催を行います。 ・ 認知症介護従事者研修会を開催します。 ・ 介護支援専門員連絡会や各種団体へ啓発を行います。 ・ 認知症ケアパスの活用促進に努めます。 ・ 医介連携事業との協働を行います。 ・ 該当する研修会への参加、協力を行います。
実績	・ 65 歳介護保険証郵送時、70 歳・75 歳交付式の際に、認知症相談窓口の周知啓発

	・ 地域包括支援センターの啓発時に認知症相談窓口を周知 ・ 地域や団体からの要望により、出前講座を開催 ・ 認知症ケアパス活用を周知（4/12 介護支援専門員連絡会にて） ・ 認知症疾患センター事例検討会へ協力・参加（検討会：1 回目 8/2、2 回目 12/13、会議：4/19、6/14、8/16、9/24、9/27、12/10、介護支援専門員へ事例提供依頼：6/4、6/12、9/25、10/1、11/15） ・ 宇城認知症懇話会の協力(事例検討会：8/2、2/7、会議：4/19、8/16、3/7) 参加者：8/2 医師会 9 名、サービス事業所 15 名、包括支援センター 3 名 2/7 医師会 10 名、サービス事業所 26 名、包括支援センター 7 名 ・ 宇城認知症懇話会を各事業所へ周知し、従事者への認知症研修参加を促した。
--	---

取組事項②		認知症の人や家族への相談支援、支援体制の構築																				
内容		・ 認知症について相談があった場合、認知症支援推進員及び地域包括支援センター職員が訪問や相談に対応します。 ・ 地域包括支援センター内で対応が困難な場合においては、適切な時期に認知症初期集中支援チームにつなげ連携を図ります。 ・ 認知症に対する理解促進を図る認知症フォーラム等を主体的に企画し、他法人と連携、協力して開催します。																				
実績		<table><tr><td>月 (件数)</td><td>4 月 (113)</td><td>5 月 (91)</td><td>6 月 (91)</td><td>7 月 (114)</td><td>8 月 (111)</td><td>9 月 (97)</td></tr><tr><td>月 (件数)</td><td>10 月 (123)</td><td>11 月 (88)</td><td>12 月 (85)</td><td>1 月 (88)</td><td>2 月 (116)</td><td>3 月 (79)</td></tr></table> 延べ件数：1196 初回相談件数：27 件 ・ ケースの相談内容により、認知症が生活課題の主要因と思われる相談内容の際には、認知症地域支援推進員が訪問や相談対応を行った。 ・ 対応困難なケースの際には、初期集中支援チームに相談を挙げる・認知症疾患医療センターに相談し、同行訪問を依頼する等他機関と連携して支援を継続した。 ・ 9/28 に認知症フォーラムを集合型で開催（認知症とお口の健康、認知症介護家族を応援し隊の宇土みどり様の講演）参加者：53 名 ・ オレンジガーデニングプロジェクト参加：市内事業所、有料老人ホーム、網田レトロ館、障がい事業所、花一輪の会へ参加依頼（認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を地域全体で支えるまちづくりの推進に向けて、9 月に活動） ・ 市役所の市民交流スペースに認知症特設ブースを設置（9/1～9/28） ・ 広報うと 9 月号に認知症特集記事を掲載 ・ 市立図書館内に認知症関連の書籍やパンフレット等を集め、特設コーナーを設置し、31 冊の貸し出しがあった。認知症に関する新書の購入(広報うと 9 月号・SNS で周知) ・ 網田中学校で毎月開催される読み聞かせボランティアに協力依頼。(9 月は認知症書籍を使用)							月 (件数)	4 月 (113)	5 月 (91)	6 月 (91)	7 月 (114)	8 月 (111)	9 月 (97)	月 (件数)	10 月 (123)	11 月 (88)	12 月 (85)	1 月 (88)	2 月 (116)	3 月 (79)
月 (件数)	4 月 (113)	5 月 (91)	6 月 (91)	7 月 (114)	8 月 (111)	9 月 (97)																
月 (件数)	10 月 (123)	11 月 (88)	12 月 (85)	1 月 (88)	2 月 (116)	3 月 (79)																

	立岡地区のお元気クラブ 12 名に対して、模擬訓練を 12/21 に実施。事前の 5/17 に認知症サポーター養成講座を実施し、その後見守り・支え合い・予防について意見交換する模擬訓練を実施した形。
考察	昨年度と同様に、オレンジガーデニングプロジェクト、認知症フォーラム、9 月の図書館での認知症コーナー設置、模擬訓練を実施した。 オレンジガーデニングプロジェクトでは、昨年よりも協力依頼先を増やし障害サービス事業所と老人福祉センター、花一輪の会から協力を得た。認知症への関心が広がっていく取り組みとなっている。(網田レトロ館は工事のため実施できなかった。) 認知症フォーラムでは、介護経験者かつ相談援助経験者の方の話しということで、身近に感じられる内容だったと思われる。「理解できた」「家族にも共有したい」とのアンケートのチェックが多かった。またお口の健康と認知症予防についても「口腔の大切さが理解できた」との意見が多かった。 図書館の認知症コーナー設置については、31 冊の貸し出しがあり例年通りの数。安定した貸し出し数が確保出来ており、実施の意義は大きいと考えている。 模擬訓練(立岡公民館)では、認知症の方の気持ちに立った見守り方法や声掛け方法について、地域住民間で意見交換を実施。自分の地域に即した具体的な意見が積極的に出ていた。 全体としては昨年と同様に、認知症に対する正しい理解と知識を普及啓発することを意識して活動した。認知症が当たり前になりつつある世の中で、認知症に対するマイナスイメージをプラスイメージに変換することは、重要事項と捉えている。認知症への無関心もマイナスイメージを持つことと同じくらいの重要な課題と捉え、関心の高まりに努めていきたい。

(6) 認知症サポーター養成事業

取組事項①	認知症サポーター養成講座の実施
内容	市との連携を行い、必要な対策(感染予防対策、講義内容調整、キャラバンメイト調整)を行いながら講座を実施します。
実績	5/17 立岡公民館(14 名)。6/4 潟公民館(9 名)。6/27 網田小学校 6 年生(14 名)。 6/28 宇土小学校 6 年生(131 名)。7/10・7/11 宇土市役所職員(16 名・20 名)。 7/18 辺田公民館(7 名)。8/21 走潟公民館(23 名)。9/5 栗崎公民館(12 名)。 9/26 宇土東小学校 4 年生(47 名)。10/16 白日会(13 名)。 10/25 走潟小学校 6 年生(19 名)。11/23 一般市民(25 名)。 R7/1/18 花園小学校 5 年生(113 名)。1/18 緑川公民館(21 名)。 3/5 戸口公民館(15 名)。3/26 田平公民館(5 名)。(すべて集合型で計 17 回。 参加者合計:504 名。

取組事項②	認知症の理解者や認知症サポーター養成講座の受講者を増やすための啓発・広報の実施
内容	市と連携しながら地域や学校への啓発・普及活動を行います。

	・ キャラバンメイトスキルアップ研修（Web 研修又は資料配布）を開催します。
実績	・ 各公民館や民児協等での認知症サポーター養成講座開催啓発を4、5月に実施。校長会での啓発を毎年9月に市に依頼し、その後各学校に啓発を行っていたが、今年度は、11月に市と連携して行った。 ・ キャラバンメイトスキルアップ研修はメイトへのアンケートを実施後、開催検討を行ったが、参加人数の確保が困難な状況にあり、開催に至らなかった。

取組事項③	認知症サポーター養成講座受講者のフォローアップと活動の活性化を図る
内容	・ 認知症サポーターへのフォローアップ講座の実施を行います。また、アクティブチーム、チームオレンジの立ち上げに係る業務に協力します。
実績	・ 認知症サポーターのフォローアップ研修は、10/9 下松山老人会（14名）。R7/2/1 一般市民（16名）。2回集合型で実施。 ・ アクティブチームの第1回話し合い参加（R7/3/6）。
考察	認知症サポーター養成講座開催を小規模なサロンやお元気クラブでの開催を実施したことや小学校の開催が定着してきていることもあり、開催数がフォローアップ研修を含めると19回と過去最高となり、参加人数も500名を超えたことは喜ばしい事だが、反面協力して頂けるキャラバンメイト数に限界があり、負担が大きくなった。 キャラバンメイトも業務を抱えながらの対応であり、調整も徐々に厳しくなっていることから、今後の開催について講座対象者や開催回数についても検討が必要と思われる。 今年度サロンなどの仲間内で開催したことで、自分自身や仲間が認知症になった場面を身近に考えて頂ける機会を持てたことはとても良かったと感じるが、今までの課題である中学生以上から60代の参加を促す方法がまだ見いだせていないことは今後も重要な課題。今年度一般市民向け講座を土曜日に実施したが、参加者年齢は若干数若い世代の方の参加があったものの、大きく効果を得られたわけではなかった。次年度の開催曜日や時間も検討が必要。 次年度のアクティブチーム立ち上げの為の話し合いに参加はしたが、まだ内容決定までには時間が掛かる様子があり、市からの方針決定を受け、協力できることがあればと思うが、立ち上げだけが目標ではなく、継続して無理なくチームが活動できる内容になるようにすることが重要と考える。

（7）認知症高齢者見守り事業

取組事項①	SOSネットワークの強化と事業周知を図り、協力者及び協力事業所の増加を図る
内容	・ SOSネットワークの事業周知を市内の事業所や認知症サポーター養成講座、認知症の講話等で行います。
実績	・ 商工会事務局（4/8）、認知症フォーラム（9/28）、各認知症サポーター養成講座、介護支援専門員連絡会において啓発。

取組事項②	SOSネットワークへの事前登録を推進し、登録者への定期的な状況把握、登録情報の更新を行う
-------	--

内容	・ 必要な方は早期登録につなげられるよう各事業担当者との連携を行っていきます。 ・ 介護支援専門員連絡会・民生児童委員の協議会において事業の周知をします。 ・ 登録者への現況調査を行います。(年1回)
実績	・ 複数回市担当者との協議。前年度のアンケート調査の結果や商工会から出た意見を踏まえ、他市町村のシステムを参考に事業の改善に向け検討。 ・ 商工会事務局、認知症フォーラム、各認知症サポーター養成講座で周知・啓発。 ・ 個別ケースにおいて、必要な方にはご家族へ細やかに説明し登録につないだ。 ・ 新規登録：8名 ・ 登録者41名中 廃止：17名 継続：22名 未提出：2名（電話で継続意向済 80・103） ・ 登録者への現況調査実施。41名の登録者に対し、電話で担当介護支援専門員や施設・入院相談員を通して状況確認を行い、書類郵送で登録継続か廃止、登録内容の変更の有無を確認した。
考察	SOS 登録が必要と思われる個別ケースについて、積極的に情報提供を行った。制度の説明をしても登録に難色を示していたご家族が、実際に道迷いの事案が起き、即登録の手続きをしたというケースがあった。 現況調査では、登録内容の変更を必要とする方が1/4を占め、居所やご本人の心身の状態が変わり、廃止に至るケースも多かった。今年度、事業を活用し検索したケースはなかったが、変更点があった際、スムーズに情報管理を行う行政・警察・包括支援センターで情報共有・伝達が出来るような体制を工夫する必要がある。 廃止者の家族より『事業を活用する事を安心して在宅介護が出来た、お世話になりました』という記載があった。ご本人の安全だけでなく、ご家族の精神的負担軽減にもつながる事業として、現況調査の時期についても、行政と検討し改善を重ねていきたい。

(8) 認知症初期集中支援推進事業

取組事項①	認知症の人やその家族に支援チームが関わり、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する
内容	・ 訪問支援対象者の把握を行います。 ・ 情報収集及び観察・評価を行います。 ・ 初回訪問時の支援を行います。 ・ 専門医を含めたチーム員会議の開催を行います。(第2火曜日) ・ 初期集中支援の実施を行います ・ 引継ぎ後のモニタリング(終了後3か月目) ・ 支援実施中の情報共有を行います。 ・ 支援チームに関する普及啓発を行います
実績	・ 対象者：5名（前年度から引き継ぎ 2名、今年度新規 3名） ・ 延べ対応件数： 53件（訪問・電話・来所） ・ チーム員会議において経過を共有。また各専門職からの助言や意見交換を行い、ご本人やご家族支援の方法や役割分担を行う。

	・ 介護支援専門員連絡会、個別ケース、広報うと 9 月号の認知症特集号内、認知症フォーラム・庁舎内掲示で周知啓発
考察	最長 6 か月の支援期間だが、1 件は在宅生活継続困難となり入院の為途中で終了。又、支援終了後モニタリングの前に亡くなったケースが 1 件。事業開始後初めての事例だった。劣悪な環境下でも自宅で暮らすという本人の意志決定を尊重しつつ関わり、支援終了後も不定期で訪問等していた。体調不良の連絡をかかりつけ医から受け、訪問支援に加え各専門機関へ支援依頼・相談を行ったが、最終的には自宅で最期を迎え、警察対応となった。チーム員会議で事例の振り返りを行う事で、繰り返しご本人の意向を確認し支援を行ったこと、医師からもその対応以外になかったであろうという見解をもらい、対象者の支援を通して支援者側の精神的負担を和らげる効果にもつながった。複数の専門職で関わる意味を再確認出来た。 親族がいない対象者が増え、積極的な介入の必要性和本人との信頼関係の構築とで対応件数が伸び悩む状況もあった。対応期間の効率化・チーム員の専門性を発揮し、各専門職の見解から課題抽出・その優先順位、対応方針まで検討出来るよう、会議内容を工夫していきたい。

(9) 生活支援コーディネーター事業

取組事項①	第 2 層協議体の運営及び設置に向けた普及啓発
内容	・ 地域で集まる場を活用し、下記の取り組み事項②で集約した地域課題を検討し協議体を設置する。
実績	・ 第 2 層協議体よりも小さい行政区単位での設置に向けて網田地区（田平、戸口、赤瀬）のふれあいクラブを中心に相談、交渉を行った。しかし、まずは包括支援センターの他事業（認知症サポーター養成講座や人生会議）の話を聞きたいとの要望があり、設置までには至っていない。

取組事項②	生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート業務
内容	・ 個別ケースを通して地域における助け合い、支えあいを広げて仕組みづくりに努めます。 ・ 地域の資源把握、開発を行います。 ・ お役立ち情報の管理、普及啓発を行います。 ・ 介護予防推進のための地域への情報提供、啓発を行います。 ・ 協議体や地域ケア会議等への積極的な参加による地域課題の整理及び課題解決に向けた取り組みを行います。 ・ 支援ニーズとサービスのマッチングを行います。
実績	・ マッチング数：61 件 ・ 個別ケースや地域ケア会議において社会資源の情報提供（マッチング） ・ 老人クラブ主催のつながる広場へ参加し、心の時間で参加者同士の交流目的でのレクリエーションや日常生活に活かせるお口の話などを行った。

	・ お役立ち情報など社会資源については、介護支援専門員連絡会や個別ケースを通じて介護支援専門員へ周知啓発 ・ 県の伴奏型支援会議へ参加 ・ つながる広場の参加者へ活動終了後の地域活動や介護予防の情報を提供 ・ 中央民生委員児童委員協議会へ介護保険制度や食事支援について説明
--	---

取組事項③	サービス・生活支援の担い手の把握
内容	・ 社会福祉協議会の生活支援コーディネーターと連携を図り、社会福祉協議会の事業や地域の担い手を把握します。
実績	・ 配食サービスなど新たな社会資源の把握を行った。また、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターと随時、ボランティア活動など社会資源の情報も共有した。
考察	第2層協議体の運営は、福祉課題が多い網田地区の行政区単位のふれあいクラブ（週1回の介護予防などのサロン活動）を中心に、将来を見据えての意見交換を行う予定であったが、住民からは認知症や人生会議の終活などの興味があり意見交換の場の設置までには至らなかった。しかし、今年度の活動が次年度の意見交換の場の設置に繋がると信じて活動を継続していきたい。 また、支援ニーズとサービスのマッチングを随時行ってきたが、介護支援専門員が地域包括支援センターへ情報収集するのではなく、自ら情報収集を行い利用者へマッチングできる体制構築が重要だと考えている。

(10) 在宅医療・介護連携推進事業

取組事項①	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の検討
内容	・ 在宅医療・介護連携推進事業検討会事務局として、必要に応じて課題抽出や対応策について検討を行います。
実績	・ 事務局打ち合わせ（5/28、3/10） ・ R6 年度第1回宇土市在宅医療・介護連携事業検討会参加（8/5） ・ R6 年度第2回宇土市在宅医療・介護連携事業検討会参加（3/17）

取組事項②	在宅医療・介護連携に関する相談支援
内容	・ 包括支援センター内に「在宅医療・介護連携支援センター」を設置し相談の受付、連携調整、情報共有、必要に応じて利用者や家族の要望を踏まえた医療機関や介護事業所相互の紹介を行います。
実績	・ 対応回数：753回 ・ 相談内訳：日常療養に関する相談支援 45%、入退院支援に関する相談 46%、急変対応 1%、看取り 2%、その他 6%

取組事項③	地域住民及び介護保険事業所への普及啓発
--------------	----------------------------

内容	・ 地域住民や介護保険事業所に対し、講演会や研修等で各種制度や現状の周知、終活支援冊子等を活用した在宅療養の理解促進を行います。 ・ 出前講座で ACP に関する地域住民の理解促進や相談窓口の周知・普及啓発に努めます（年 4 回）。
実績	○ ACP と相談窓口の啓発 ・ 毎月高齢受給者証と後期高齢者被保険者証交付式にて：271 名 ・ 窓口認知度：包括支援センター（25％）在宅医療介護相談支援センター（10％） ※ 啓発で直接関わった方を対象に窓口を知っている方を手上げでカウント ○ 出前講座と相談窓口の啓発 ・ 各校区公民館成人講座向け（4/15、19、22）7 名 ・ 老人クラブ総会（4/23）：36 名 ・ 馬場老人クラブ（26）：26 名 ・ 東部民協民生委員（5/2）：15 名 ・ 立岡お元気クラブ（5/17）：14 名 ・ 栄游お元気クラブ（6/4）：9 名 ○ ACP 出前講座開催と窓口啓発・エンディングノート配布 ・ 宮の庄お元気クラブ（5/13）：9 名 ・ 馬場地区老人クラブ（6/8）：18 名 ・ 立岡公民館お元気クラブ（7/19）：13 名 ・ 網田公民館成人講座（8/9）：14 名 ・ 築籠地区老人クラブ（8/27）：16 名 ・ 境目団地サロン（10/2）：11 名 ・ 栗崎町サロン（10/3）：13 名 ・ 御領橋地区（10/23）：22 名 ・ 下松山老人クラブ（12/11）：12 名 ○ 在宅医療サポートセンター主催の住民向けフォーラム会開催協力（12/7）

取組事項④	研修・会議への参加
内容	・ 研修や会議等へ参加し、情報収集を行います。 ・ 在宅医療・介護に係る情報を整理し、意見交換や報告の場で活用し情報発信します。
実績	・ UK ミーティング参加（4/10） ・ 宇土・宇城・美里在宅医療住民フォーラム開催打ち合わせ参加（7/3、31） ・ 宇土・宇城・美里在宅医療住民フォーラム事例打ち合わせ（8/23、9/11、24） ・ 宇城地域在宅医療連携体制検討会議（10/23、12/25） ・ 宇城地域在宅医療サポートセンター連絡会（2/6）

取組事項⑤	医療・介護関係者間の情報共有の支援
-------	-------------------

内容	医療機関連携担当者一覧・入退院連携ガイドブックを関係機関へ周知、活用を行います。
実績	- 介護支援専門連絡会にて医療機関連携担当者一覧・入退院連携ガイドブックを啓発（4/12） - 宇城地域リハビリテーション支援センター第3回地域連携ミーティングにて宇土市入退院連携ガイドブックを啓発（3/13）
考察	前年度に比べ相談件数は増えている一方で、在宅医療・介護連携支援センターの認知度は10%と低い。あわせて包括支援センターの認知度25%、認知症相談窓口の認知度20%と共に低く、他事業担当と連携して周知啓発に努める必要があると考える。 相談内容は主に日常療養支援と入退院支援に関するもので、訪問や電話によるアナログな方法で連携対応を行っている。今後の連携はICT化が進むと思われるが、ICT活用を行っていないので課題把握ができていない。次年度はくまもとメディカルネットワークに申し込み、活用を行いながら課題を把握したい。また宇土市在宅医療・介護連携事業検討会ではマイナ保険証・マイナ救急の仕組みを聞き、マイナ保険証保有の普及が大切になってくると感じた。デジタル化の動向を収集しつつ、関心を持ち業務に臨みたい。 ACPに関する取り組みは、フォーラムや講座でACPの考え方を知った後、最期の迎え方を家族と話し合いたいと答えた人はフォーラムアンケート95%、出前講座アンケート61%と関心が高かったため、次年度も力を入れて実施したい。学習し理解できた後、実際に話し合いができていないか、出前講座の参加者を対象にアンケートを行ったところ、できたと答えた人は27%と実施率は低かった。その理由には“話しづらい”“まだ先のこと”と答えてあり、「死」を話題にするACPはタブーな事という認識が払拭されていないことが背景にあると思われる。だがACPは大事な事なので、①理解を図る②理解を深める2ステップの講座計画を行い、2ステップ目では改訂されるエンディングノートを活用して本音を記入してもらえそうな講座を企画し実践したい。

(11) 介護予防ケアマネジメント事業

取組事項①	指定介護予防支援・第1号介護予防事業		
内容	- 利用者の意欲と生活背景に配慮したうえで自立支援に向けた積極的な働きかけをします。 - 一人ひとりの生きがいや自己実現のため取り組みを支援して、生活の質の向上を目指します。		
実績	- 委託事業所 - 宇土市内 7事業所 - 宇土市外 8事業所 - 介護予防マネジメント - 包括分 780件 - 委託分 158件 - 介護予防支援 - 包括分 1,678件 - 委託分 666件		

【資料編】

1 地域における公益的取組

(1) 生計困難者レスキュー事業

年度	相談 件数	支援 件数	支 援 総 額 (円)	年代別相談者 (人)								
				合計	10	20	30	40	50	60	70	80
2024 (R6)	13	13	204,694	13	0	4	3	2	0	4	0	0
2023 (R5)	12	12	150,319	12	0	2	0	1	3	4	0	2
2022 (R4)	8	8	108,432	8	0	0	2	0	4	2	0	0
2021 (R3)	9	5	49,038	9	0	2	0	1	1	1	2	2
2020 (R2)	9	7(1)	54,411	9	0	1	0	1(1)	5	2	1	0

※ () 数値は前年度からの継続支援件数。

(2) 公開講座

年度	開催回数	利用者数	備考
2024 (R6)	2	①16 名 ②13 名	① 公開講座 「レスキュー事業・AED の取り扱い」 参加者内訳 一般 4 名 (網田地区民生委員) 初任者 12 名 会場：ひまわりホーム会場で開催 ② 認知症サポーター養成講座 参加者内訳 一般 1 名 (たんぽぽ保育園) 初任者 12 名 会場：ひまわりホーム会場で開催
2023 (R5)	2	① 32 人 ② 17 人	① 公開講座 「社会福祉法人 白日会の役割について」 参加者内訳 一般 17 名 (評議員 2 名、民生委員 9 名、 家族会 5 名、社協 1 名) 初任者 14 名、小田会 1 名 会場：照古苑、ひまわりホームの 2 会場でのハイブリッド開催 ② 認知症サポーター養成講座 参加者内訳 一般 3 名 (ろうきん 1 名、ケアパーク 2 名) 初任者 14 名 会場：照古苑、ひまわりホームの 2 会場でのハイブリッド開催
2022 (R4)	1	① 31 人	認知症サポーター養成講座 ① 参加者 (照古苑初任者：18 人、一般 13 人：地域 5 人、家族会 7 人、SS 利用者家族 1 人) 会場：照古苑、ひまわりホームの 2 会場でのハイブリッド開催

2 利用者の状況

(1) たんぽぽ保育園

毎月初日の年間平均利用児童数

単位：人

年度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	全体
2024 (R6)	10.7	21.4	24.0	24.0	24.0	28.0	132.1
2023 (R5)	11.7	22.3	23.6	24.6	28.0	21.0	131.2
2022 (R4)	11.3	22.2	23.1	25.8	19.8	29.3	131.5
2021 (R3)	12.6	20.5	23.8	20.0	28.0	27.0	131.9
2020 (R2)	12.3	22.4	19.4	24.8	27.0	21.0	127.0

※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため合計数と必ずしも合わない。

(2) 五色山学童クラブ

毎月初日の年間平均利用児童数

単位：人

年度	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全体
2024 (R6)	7.8	15.7	2.0	4.1	0.91	0	30.5
2023 (R5)	19.5	4.6	9.8	1.0	1.0	2.2	38.1
2022 (R4)	4.8	10.5	4.0	1.0	2.0	0	22.3
2021 (R3)	6.4	7.0	7.4	2.0	0	0	22.8
2020 (R2)	11.0	10.2	8.3	0.6	0	0	30.0

※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため合計数と必ずしも合わない。

(3) 特別養護老人ホーム照古苑

入所者の状況

年度末現在

年度	性別 (人)			平均年齢 (歳)			平均介護度			在籍期間 (年)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2024 (R6)	21	89	110	84.8	89.7	87.2	4.0	4.2	4.1	2.5	4.0	3.8
2023 (R5)	19	91	110	85.9	90.9	90.0	4.2	4.2	4.3	2.1	3.8	3.5
2022 (R4)	19	91	110	86.0	89.6	89.0	4.2	4.3	4.3	3.1	4.3	4.1
2021 (R3)	18	92	110	84.1	90.8	89.7	4.3	4.3	4.3	3.2	4.7	4.4
2020 (R2)	18	93	111	84.7	91.2	89.3	4.2	4.4	4.4	3.8	4.5	4.4

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024 (R6)	109.7	109.6	109.0	108.3	110.3	108.9	109.1	109.2	108.6	107.5	105.6	108.8	108.7	98.8
2023 (R5)	107.6	109.6	109.8	109.7	109.0	108.2	108.9	109.5	108.8	110.0	109.1	108.5	109.1	99.2
2022 (R4)	110.3	110.2	109.1	109.4	109.7	109.0	109.1	105.6	108.8	109.0	107.0	105.5	108.6	98.7
2021 (R3)	109.5	108.1	108.3	107.7	109.7	108.9	109.8	108.5	109.0	108.1	108.3	109.6	108.8	98.9
2020 (R2)	108.0	108.9	109.0	108.8	109.2	109.7	109.7	109.7	109.5	108.6	110.8	111.0	109.4	99.4

(4) 照古苑 ひまわりホーム (地域密着型指定介護老人福祉施設)

入所者の状況

年度末現在

年度	性別 (人)			平均年齢 (歳)			平均介護度			在籍期間 (年)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2024 (R6)	6	22	28	84.8	87.4	86.8	4.1	4.4	4.3	1.5	3.5	3.0
2023 (R5)	7	22	29	82.3	87.5	86.2	4.0	4.4	4.2	1.6	3.7	3.2
2022 (R4)	6	23	29	93.2	90.3	90.9	4.3	4.3	4.3	2.0	3.9	3.6
2021 (R3)	4	25	29	95.2	90.6	91.2	3.8	4.2	4.1	2.6	3.5	3.3
2020 (R2)	5	24	29	85.2	90.1	89.2	3.6	4.2	4.1	1.5	2.9	2.7

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024 (R6)	28.6	28.5	28.9	29.3	30.0	29.7	29.7	28.8	28.5	28.9	28.6	28.6	29.0	100.0
2023 (R5)	28.7	28.8	29.0	29.0	28.5	28.5	28.4	28.1	28.9	28.6	29.0	28.9	28.7	98.9
2022 (R4)	29.0	29.0	29.0	28.5	28.9	28.9	29.0	29.0	28.6	27.2	27.6	29.0	28.6	98.8
2021 (R3)	28.9	28.7	29.0	29.0	29.0	29.0	28.9	28.1	29.0	29.0	29.0	29.0	28.9	99.6
2020 (R2)	28.1	28.7	29.9	28.9	28.8	28.3	28.8	28.3	28.7	29.0	29.6	29.0	28.8	99.4

(5) 照古苑ショートステーション (短期入所)

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024 (R6)	3.17	4.13	4.23	4.23	4.55	4.00	4.10	4.07	5.13	3.61	3.11	3.71	4.01	20.05
2023 (R5)	10.07	9.90	11.73	12.61	12.77	12.27	12.00	10.70	5.65	3.68	2.07	1.90	8.79	43.94
2022 (R4)	10.13	10.39	12.63	10.13	9.39	13.27	12.10	9.73	10.10	12.52	12.21	10.52	11.08	55.39
2021 (R3)	9.90	7.48	6.57	7.32	8.68	6.13	7.03	8.17	8.32	8.87	9.39	10.23	8.17	40.84
2020 (R2)	17.23	15.13	16.73	15.42	16.61	16.97	14.00	13.80	16.71	17.10	17.00	14.58	15.93	79.64

(6) 照古苑ひまわりホームショートステイ (短期入所)

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024 (R6)	7.67	7.84	8.00	7.74	8.19	7.67	7.29	8.80	8.58	6.45	8.36	7.00	7.79	77.91
2023 (R5)	7.57	7.94	6.53	7.26	9.48	6.10	7.52	8.40	6.61	8.48	8.93	8.32	7.76	77.83
2022 (R4)	7.70	7.00	7.77	7.32	8.19	7.57	7.94	8.23	7.00	4.58	7.21	7.45	7.33	73.26
2021 (R3)	8.10	7.48	6.97	7.58	8.42	8.80	7.68	8.00	8.16	8.81	8.39	8.58	8.08	80.79
2020 (R2)	6.67	7.42	6.20	8.23	8.23	7.07	6.58	8.10	7.65	8.16	8.54	8.06	7.57	75.72

(7) 照古苑デイサービスセンター (月～土)

ア 通所介護+現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	32.3	31.4	31.6	23.3	25.3	28.7	29.1	27.9	27.6	23.6	24.6	24.7	27.4	68.0
2023(R5)	32.1	32.3	32.8	31.4	30.5	31.0	31.6	32.0	30.0	29.9	30.7	30.4	31.1	78.0
2022(R4)	25.7	24.8	25.9	24.0	23.9	22.6	24.1	22.6	23.1	23.0	26.7	29.3	24.6	61.0
2021(R3)	31.4	27.7	28.2	36.2	29.3	26.9	32.6	33.3	34.6	30.8	26.9	26.9	30.4	75.0
2020(R2)	28.2	28.6	31.8	31.2	30.8	30.6	33.2	31.2	31.2	24.7	27.0	32.2	30.1	75.0

イ 通所介護

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	30.7	30.2	30.4	21.9	23.7	27.2	27.2	25.8	25.5	21.9	22.2	22.4	25.7	64.0
2023(R5)	30.5	31.4	32.1	31.0	30.2	30.5	30.6	30.9	30.4	29.0	29.5	29.4	30.4	76.0
2022(R4)	24.8	24.0	25.2	23.3	23.2	21.7	23.3	21.9	22.2	22.2	25.1	27.7	23.7	59.0
2021(R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29.5	73.0
2020(R2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29.3	73.0

ウ 現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	1.6	1.2	1.2	1.3	1.6	1.6	1.9	2.1	2.1	1.7	2.4	2.3	1.7	4.0
2023(R5)	1.6	0.9	0.7	0.4	0.3	0.5	1.0	1.1	0.9	1.0	1.2	1.0	0.9	2.0
2022(R4)	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.8	0.7	0.9	0.9	1.6	1.6	0.9	2.0
2021(R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	2.0
2020(R2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9	2.0

(8) 照古苑ひまわりホームデイサービス (月～土)

ア 通所介護+現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	16.7	15.2	16.1	15.2	14.6	13.9	12.6	13.8	13.7	9.0	12.0	12.6	13.6	上 49.0 下 68.0
2023(R5)	18.4	18.2	17.4	17.4	16.3	20.2	18.4	17.1	16.0	17.2	17.8	17.2	17.5	58.0
2022(R4)	20.8	21.8	20.2	21.1	20.1	21.5	21.5	19.9	20.4	16.6	20.7	18.6	20.2	67.0
2021(R3)	22.7	20.1	19.4	21.2	18.3	17.7	21.8	21.9	22.1	23.3	19.5	20.3	20.6	
2020(R2)	14.5	15.2	16.5	16.7	17.0	16.7	22.3	22.2	21.9	20.0	18.9	20.0	18.5	

R6年度の稼働率は、上半期は通常型定員 30 人、下半期は地域密着型定員 18 人により算出。

イ 通所介護

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	16.4	14.7	15.3	14.5	12.2	19.7	12.0	13.3	12.8	8.2	11.2	11.9	13.0	上47.0 下64.0
2023(R5)	18.4	18.2	18.0	17.4	15.9	19.7	17.8	16.4	15.3	16.7	17.2	17.0	17.2	57.0
2022(R4)	20.4	21.2	19.6	20.5	19.4	20.9	20.9	19.3	20.1	16.5	20.6	18.4	19.8	65.0
2021(R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.1	66.0
2020(R2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.1	60.0
2019(R1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.63	55.0

ウ 現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	0.3	0.6	0.8	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	上1.0 下3.0
2023(R5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.3	0.4	1.0
2022(R4)	0.5	0.7	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6	0.2	0.2	0.1	0.2	0.5	1.0
2021(R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	1.0
2020(R2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	1.0
2019(R1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	1.0

(9) ウェルネス照古苑いきいき道場(月～土)

ア サービスA(宇土市介護予防・日常生活支援総合事業)

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	9.0	9.2	9.3	8.8	8.3	8.8	8.6	8.1	7.6	7.3	7.1	6.9	8.3	41.0
2023(R5)	8.1	8.3	8.5	7.2	7.2	7.8	7.8	8.0	8.2	8.9	8.8	8.9	8.2	40.0
2022(R4)	6.2	6.7	7.2	6.8	6.9	7.3	8.1	7.5	7.6	7.2	7.5	7.7	7.2	36.0
2021(R3)	7.3	6.9	6.5	6.4	6.3	6.3	6.9	7.6	7.5	6.8	5.8	6.3	6.7	33.0
2020(R2)	5.0	4.9	6.8	7.0	5.9	6.5	7.2	7.8	7.3	6.3	6.4	7.3	6.5	32.0

イ 自費利用

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2024(R6)	4.0	4.4	4.6	3.8	4.0	4.1	4.4	4.5	4.4	3.6	4.3	4.5	4.2	21.0
2023(R5)	4.9	3.4	3.3	3.3	3.1	3.4	3.6	3.9	4.2	4.0	4.2	4.0	3.8	18.0
2022(R4)	3.8	3.7	4.1	4.2	3.5	3.7	4.7	3.9	4.0	3.7	4.3	4.6	4.0	20.0
2021(R3)	4.5	3.6	3.5	4.0	2.9	1.9	3.7	3.4	3.5	3.1	3.3	3.3	3.4	16.0
2020(R2)	3.0	3.5	4.6	4.2	2.9	4.0	4.0	4.1	4.8	3.9	3.5	3.8	3.8	19.0

(10) 照古苑居宅介護支援事業所

居宅介護支援費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	170	171	171	166	167	157	162	166	173	172	170	170	2,015
2023 (R5)	180	180	179	173	159	148	157	151	156	153	159	163	1,958
2022 (R4)	200	203	201	197	200	195	199	191	187	185	177	180	2,315
2021 (R3)	121	113	116	122	210	214	211	202	205	203	196	207	2,121
2020 (R2)	107	107	106	105	109	112	115	116	122	120	121	126	1,366

介護予防支援費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	2	4	5	5	5	5	5	5	6	8	7	8	59
2023 (R5)	2	2	2	2	3	3	3	4	4	3	3	3	34
2022 (R4)	3	3	5	4	3	4	2	2	2	2	2	2	34
2021 (R3)	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	56
2020 (R2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	5	17

介護予防ケアマネジメント費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	2	1	2	3	2	2	3	2	2	3	3	3	27
2023 (R5)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	5
2022 (R4)	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
2021 (R3)	1	1	4	1	1	3	2	2	3	1	0	2	21
2020 (R2)	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	6	8

年間事業者別利用人数

年 度	訪問介護	通所介護	通所リハ	短期入所	福祉用具	訪問看護	そ の 他
2024 (R6)	61	117	14	19	116	18	4
2023 (R5)	68	132	11	25	112	17	3
2022 (R4)	95	137	13	35	127	16	3
2021 (R3)	76	129	10	30	104	13	4
2020 (R2)	38	90	9	24	70	8	12

※ その他は定期巡回、訪問リハ、訪問入浴等

(1 1) 地域包括支援センター

介護予防支援費請求件数（包括分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	153	158	158	159	155	148	148	145	146	143	143	152	1,808
2023 (R5)	121	118	128	135	137	146	145	144	144	148	155	157	1,678
2022 (R4)	116	118	119	118	117	113	118	117	122	120	123	125	1,426
2021 (R3)	106	102	102	108	109	113	114	114	114	115	110	108	1,315
2020 (R2)	90	91	99	102	103	109	106	108	108	103	109	110	1,238

介護予防支援費請求件数（居宅委託分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	69	73	73	80	80	75	73	75	71	70	63	66	868
2023 (R5)	51	55	55	57	59	56	51	53	55	55	57	62	666
2022 (R4)	47	47	47	45	46	47	50	48	50	48	51	51	577
2021 (R3)	52	49	49	46	48	46	46	46	49	46	42	49	568
2020 (R2)	45	49	49	50	47	47	47	50	51	48	45	53	581

介護予防ケアマネジメント費請求件数（包括分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	58	54	54	57	48	49	56	51	48	45	50	55	625
2023 (R5)	60	76	76	59	58	66	62	78	64	61	60	60	780
2022 (R4)	57	51	72	56	67	68	62	65	76	58	64	79	775
2021 (R3)	59	55	65	63	59	70	64	64	67	51	52	60	729
2020 (R2)	63	60	72	86	79	83	75	75	61	68	64	63	849

介護予防ケアマネジメント費請求件数（居宅委託分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2024 (R6)	18	15	16	17	17	14	13	10	15	18	16	18	187
2023 (R5)	13	11	10	14	12	10	12	17	13	17	17	12	158
2022 (R4)	14	11	11	13	13	20	17	18	16	18	18	13	182
2021 (R3)	16	11	12	13	7	13	9	14	13	16	9	13	146
2020 (R2)	15	15	15	18	15	15	17	10	13	13	9	17	172

3 宇土市地域包括支援センター活動実績

(1) センター取扱

ア 個別ケース活動状況

年度		令和6年度				R 5	R 4	R 3	R 2
		活動形態			合計				
		電話	来所	訪問					
初回相談		208	54	12	274	316	270	247	224
総合相談支援	ネットワーク構築	17	0	2	19	28	42	42	67
	実態把握	13	1	33	47	41	73	73	117
	相談支援	1,015	149	669	1,833	1970	1,853	1,853	1,155
	保健福祉サービス等	33	3	27	63	29	52	52	44
	小計	1,078	153	731	1,962	2,068	2,020	2,020	1,383
権利養護	成年後見制度等	14	0	9	23	51	69	69	58
	虐待対応	91	5	130	226	214	117	117	91
	困難事例対応	163	11	114	288	268	137	137	161
	消費者被害	2	0	1	3	4	4	4	0
	小計	270	16	254	540	537	327	327	310
包括的・継続的	委託全般	177	82	112	371	323	334	334	235
	支援相談	82	12	27	121	99	83	83	79
	小計	259	94	139	492	422	417	417	314
認知症業務	見守り活動(SOS)	29	3	7	39	12	68	68	55
	初期集中支援チーム	20	4	29	53	69	47	47	111
	小計	49	7	36	92	81	115	115	166
生活支援体制整備		20	1	15	36	26	45	35	10
在宅医療・介護連携		660	11	82	753	729	666	765	646
マネジメント	マネジメント全般	2,957	110	2,431	5,498	5,915	5,249	5,249	5,411
	マッチング	18	0	7	25	17	56	56	42
	小計	2,975	110	2,438	5,523	5,932	5,305	5,305	5,453
合計		5,519	446	3,707	9,672	10,111	9,489	9,231	8,506
(再掲)	認知症支援				1,196	1,109	1,306	1,306	925

イ 初回相談経路

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
本人	37	23	27	17	16
家族	112	146	119	103	72
民生委員・嘱託員	10	15	20	14	27
婦人会・老人会	0	1	0	1	4
行政	28	30	20	18	21
医療・相談機関	63	60	52	64	44

居宅・サービス事業所	18	22	12	17	27
その他	6	19	20	13	12
合計	274	316	270	247	223

ウ 初回相談内容

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
認知症	27	33	35	26	23
介護	153	187	131	156	112
生活	60	57	53	30	49
施設	7	10	15	10	8
医療・入院	15	17	11	11	5
各種事業	3	1	2	0	4
その他	9	11	23	14	18
合計	274	316	270	247	219

エ 行事・研修・会議等

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
総合相談支援	100	87	87	48	54
権利擁護	53	34	40	30	35
包括的・継続的	25	12	20	11	23
認知症業務	120	187	113	122	56
生活支援体制整備	26	21	23	10	28
在宅医療・介護連携	48	28	15	15	15
地域ケア会議	21	28	27	23	19
研修会参加	11	20	34	53	23
合計	404	417	359	312	253

(2) ブランチ本町取扱

ア 個別ケース活動状況

年度		令和6年度				R 5	R 4	R 3	R 2
		相談形態			合計				
		電話	来所	訪問					
地域におけるネットワーク構築		0	0	0	0	1	3	1	9
総合相談支	初動期段階の相談対応	17	11	62	90	125	150	141	133
援業務	継続的・専門的な相談支援	37	16	106	159	96	133	30	148
保健福祉サービス等の適用調整業務		11	3	106	120	128	125	121	129
合計		65	30	274	369	350	411	393	419

イ 初回相談種別

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
本人	3	4	4	3	22
家族	23	11	18	14	12
民生委員・嘱託員	1	2	3	4	1
婦人会・老人会	0	0	0	0	0
行政	0	2	2	0	0
医療・相談機関	32	20	22	22	5
居宅・サービス事業所	8	9	12	13	6
その他	1	1	5	0	0
合計	68	49	66	56	46

ウ 個別ケース申請件数

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
在宅福祉	6	5	6	2	1
地域支援	12	25	17	23	24
介護保険	54	35	51	36	13
総合事業	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	72	65	74	61	38

エ 行事・研修・会議等

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
行事・研修・会議等	5	5	8	5	13

(3) ブランチ西部取扱

ア 個別ケース活動状況

年度		令和6年度			R 5	R 4	R 3	R 2	
		相談形態							合計
		電話	来所	訪問					
地域におけるネットワーク構築		0	0	0	0	0	4	0	
総合相談支	初動期段階の相談対応	11	1	21	33	53	51	48	32
援業務	継続的・専門的な相談支援	16	1	38	55	575	145	136	160
保健福祉サービス等の適用調整業務		2	0	38	40	32	19	24	32
合計		29	2	97	128	142	215	212	224

イ 初回相談種別

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
本人	0	2	0	0	1
家族	1	1	2	1	3
民生委員・嘱託員	8	8	6	5	1
婦人会・老人会	0	0	0	0	0
行政	5	3	2	3	0
医療・相談機関	3	7	5	11	6
居宅・サービス事業所	0	1	2	1	0
その他	1	0	0	1	1
合計	18	22	17	22	12

ウ 個別ケース申請件数

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
在宅福祉	4	4	2	2	4
地域支援	6	5	9	6	10
介護保険	3	2	6	7	1
総合事業	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	13	11	17	15	15

エ 行事・研修・会議等

年度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
件数	6	12	23	19	16

4 資金収支状況

(1) 法人本部拠点

単位：円

年度		2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2019 (R3)	2020 (R2)
拠点	事業活動収入	349,989	136,405	139,032	49,044	66,058
	事業活動支出	3,464,707	4,348,109	1,617,696	1,495,725	1,250,297
	施設整備収入	0	0	0	0	0
	施設整備支出	0	0	0	0	0
	その他活動収入	3,200,000	4,168,000	1,423,522	2,074,234	931,000
	その他活動支出	0	0	0	0	0
	当期資金収支差額	85,282	△43,704	△55,142	627,553	△253,239
	当期末資金収支残高	1,242,000	1,156,718	1,200,422	1,255,564	628,011
サービス区分	法人本部	事業活動収入	150,468	10	9	8
		事業活動支出	3,250,906	4,093,060	1,428,486	1,396,412
		施設整備収入	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0
		その他活動収入	3,200,000	4,168,000	1,423,522	2,074,234
		その他活動支出	0	0	0	0
		当期資金収支差額	99,562	74,950	△4,922	677,828
		当期末資金収支残高	1,761,918	1,662,356	1,587,406	1,592,361
	公益的取組	事業活動収入	0	0	0	0
		事業活動支出	32,579	39,716	0	0
		施設整備収入	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△32,579	△39,716	0	0
		当期末資金収支残高	△228,528	△195,949	△156,233	△156,233
	生計困難者レスキュー事業	事業活動収入	199,521	136,395	139,023	49,038
		事業活動支出	181,222	215,333	189,210	99,313
		施設整備収入	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0
		当期資金収支差額	18,299	△78,938	△50,187	△50,275
		当期末資金収支残高	△291,390	△309,689	△230,751	△180,564

(2)たんぽぽ拠点

単位：円

年度		2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2019 (R3)	2020 (R2)	
拠点	事業活動収入	179,307,641	169,868,963	159,961,085	153,646,299	148,289,720	
	事業活動支出	168,630,075	158,696,068	155,411,654	144,388,004	138,675,208	
	施設整備収入	0	0	0	0	15,117,000	
	施設整備支出	839,007	471,020	2,784,595	42,121,248	25,459,637	
	その他活動収入	219,120	1,027,700	13,940,460	56,500,000	25,628,700	
	その他活動支出	5,245,740	6,038,000	5,405,954	28,573,234	12,032,000	
	当期資金収支差額	4,811,939	5,691,575	7,299,342	△4,936,187	12,868,575	
	当期末資金収支残高	60,329,819	55,517,880	49,826,305	42,526,963	47,463,150	
サービス区分	たんぽぽ保育園	事業活動収入	168,258,990	158,247,785	147,909,753	144,669,567	138,957,739
		事業活動支出	161,721,699	151,323,077	149,446,066	140,289,710	133,365,250
		施設整備収入	0	0	0	0	15,117,000
		施設整備支出	839,007	471,020	2,784,595	5,495,330	25,040,757
		その他活動収入	219,120	1,027,700	13,940,460	30,500,000	25,628,700
		その他活動支出	5,245,740	6,038,000	5,405,954	2,547,000	12,032,000
		当期資金収支差額	671,664	1,443,388	4,213,598	28,837,527	9,265,432
		当期末資金収支残高	62,563,038	61,891,374	60,447,986	56,234,388	29,396,861
	五色山学童クラブ	事業活動収入	11,048,651	11,621,178	9,051,332	8,976,732	9,331,981
		事業活動支出	6,908,376	7,372,991	5,965,588	4,098,294	5,309,958
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	36,625,918	418,880
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	26,234	0
		当期資金収支差額	4,140,275	4,248,187	3,085,744	△31,773,714	3,603,143
		当期末資金収支残高	△2,233,219	△6,373,494	△10,621,681	△13,707,425	18,066,289

(3) 照古苑拠点

単位：円

年度		2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2019 (R3)	2020 (R2)	
拠点	事業活動収入	628,803,095	758,291,208	743,086,456	721,872,663	755,040,833	
	事業活動支出	637,763,426	712,978,357	742,473,725	719,216,180	695,319,974	
	施設整備収入	0	0	0	324,000	1,372,000	
	施設整備支出	2,543,700	172,989,953	21,182,000	33,445,062	29,434,480	
	その他活動収入	107,780,875	270,441,089	109,666,063	27,340,139	332,834,308	
	その他活動支出	109,578,500	106,062,847	103,675,364	61,934,689	354,394,906	
	当期資金収支差額	△13,301,655	36,701,140	△14,578,570	△65,059,129	10,097,781	
	当期末資金収支残高	393,421,921	403,773,545	367,072,405	381,650,975	446,710,104	
サービス区分	特別養護老人ホーム	事業活動収入	515,324,679	515,878,852	506,981,201	487,791,908	498,310,634
		事業活動支出	503,877,621	477,247,398	497,180,949	475,372,848	461,242,754
		施設整備収入	0	0	0	324,000	1,372,000
		施設整備支出	2,348,500	172,686,793	21,182,000	28,992,712	23,582,620
		その他活動収入	107,780,875	270,441,089	108,143,691	25,013,194	331,644,240
		その他活動支出	109,578,500	106,062,847	103,675,364	60,934,689	353,394,906
		当期資金収支差額	7,300,933	30,322,903	△6,913,421	△52,171,147	△6,893,406
		当期末資金収支残高	227,057,095	219,996,162	189,673,259	196,586,680	248,757,827
	ショートステーション	事業活動収入	18,328,846	36,555,888	46,082,813	32,416,794	64,581,457
		事業活動支出	37,496,927	43,471,890	44,408,250	39,936,452	41,815,823
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	3,694,020
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△19,168,081	△6,916,002	1,674,563	△7,519,658	19,071,614
		当期末資金収支残高	93,192,642	112,360,723	119,276,725	117,602,162	125,121,820
	デイサービスセンター	事業活動収入	95,149,571	104,263,375	84,811,788	100,962,041	102,712,772
		事業活動支出	96,388,878	87,623,982	94,038,300	103,117,325	101,323,796
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	195,200	157,300	0	259,600	840,840
		その他活動収入	0	0	1,522,372	2,081,845	432,150
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△1,434,507	16,482,093	△7,704,140	△333,039	980,286
		当期末資金収支残高	81,434,181	82,868,688	66,386,595	74,090,735	74,423,774

(3) 照古苑拠点つづき

単位：円

年度			2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2019 (R3)	2020 (R2)
サービス区分	社会福祉の増進に資する人材の育成	事業活動収入	0	0	0	0	0
		事業活動支出	0	2,990,875	2,271,122	0	0
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	1,000,000	1,000,000
		当期資金収支差額	0	△2,990,875	△2,271,122	△1,000,000	△1,000,000
		当期末資金収支残高	△8,261,997	△8,261,997	△5,271,122	△3,000,000	△2,000,000
	居宅介護支援事業	事業活動収入	—	31,833,533	37,506,031	34,429,100	22,125,980
		事業活動支出	—	31,663,242	37,302,391	34,416,724	23,691,607
		施設整備収入	—	0	0	0	0
		施設整備支出	—	0	0	3,965,600	1,168,500
		その他活動収入	—	0	0	0	606,730
		その他活動支出	—	0	0	0	0
		当期資金収支差額	—	170,291	203,640	△3,953,224	△2,127,397
		当期末資金収支残高	—	1,954,267	1,783,976	1,580,336	5,533,560
	地域包括支援センター	事業活動収入	—	69,759,560	67,704,623	66,272,820	67,309,990
		事業活動支出	—	69,980,970	67,272,713	66,372,831	67,245,994
		施設整備収入	—	0	0	0	0
		施設整備支出	—	145,860	0	227,150	148,500
		その他活動収入	—	0	0	245,100	151,188
		その他活動支出	—	0	0	0	0
		当期資金収支差額	—	△367,270	431,910	△82,061	66,684
		当期末資金収支残高	—	△5,144,298	△4,777,028	△5,208,938	△5,126,877

※ 2024年度（令和6年度）から居宅・包括は公益事業拠点区分として照古苑拠点区分から分離。

(4) ひまわり拠点

単位：円

年度		2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2019 (R3)	2020 (R2)	
拠点	事業活動収入	257, 216, 092	260, 706, 416	254, 531, 708	251, 869, 520	243, 629, 912	
	事業活動支出	271, 273, 096	265, 035, 300	255, 924, 509	235, 707, 251	234, 954, 761	
	施設整備収入	0	168, 604, 000	0	0	0	
	施設整備支出	17, 196, 920	22, 573, 500	8, 888, 800	3, 893, 400	1, 999, 840	
	その他活動収入	1, 268, 070	0	837, 855	1, 017, 945	738, 955	
	その他活動支出	729, 000	169, 735, 000	362, 204	630, 000	311, 000	
	当期資金収支差額	△30, 714, 854	△28, 033, 381	△9, 472, 950	12, 656, 814	7, 103, 266	
	当期末資金収支残高	△115, 860, 841	△85, 145, 987	△57, 112, 603	△47, 639, 653	△60, 296, 467	
サービス区分	ひまわり ホ ー ム (特養)	事業活動収入	168, 156, 536	165, 615, 321	155, 466, 668	150, 265, 219	151, 748, 168
		事業活動支出	188, 688, 149	183, 943, 316	175, 565, 595	160, 782, 434	166, 244, 423
		施設整備収入	0	168, 604, 000	0	0	0
		施設整備支出	17, 196, 920	20, 649, 380	305, 800	648, 400	1, 178, 980
		その他活動収入	1, 268, 070	0	837, 855	1, 017, 945	738, 955
		その他活動支出	729, 000	169, 735, 000	362, 204	630, 000	311, 000
		当期資金収支差額	△37, 189, 463	△40, 108, 375	△19, 929, 076	△10, 777, 670	△15, 247, 280
		当期末資金収支残高	△202, 913, 433	△165, 723, 970	△125, 615, 595	△105, 686, 519	△94, 908, 849
	ショ ー ト ステイ	事業活動収入	40, 411, 024	39, 550, 684	35, 959, 709	38, 923, 191	37, 244, 129
		事業活動支出	33, 067, 918	31, 969, 033	30, 906, 994	28, 828, 292	28, 142, 740
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	143, 000	0	0	235, 620
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	7, 343, 106	7, 438, 651	5, 052, 715	10, 094, 899	8, 865, 769
		当期末資金収支残高	41, 213, 330	33, 870, 224	26, 431, 573	21, 378, 858	11, 283, 959
	デイサー ビス	事業活動収入	48, 648, 532	55, 540, 411	63, 105, 331	62, 681, 110	54, 637, 615
		事業活動支出	49, 517, 029	49, 122, 951	49, 451, 920	46, 096, 525	40, 567, 598
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	1, 781, 120	8, 250, 000	3, 245, 000	585, 240
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△868, 497	4, 636, 340	5, 403, 411	13, 339, 585	13, 484, 777
		当期末資金収支残高	45, 839, 262	46, 707, 759	42, 071, 419	36, 668, 008	23, 328, 423

(5) 公益事業拠点

単位：円

年度		2024 (R6)	2023 (R5) 再掲	2022 (R4) 再掲	2019 (R3) 再掲	2020 (R2) 再掲	
拠点	事業活動収入	105,698,986	101,643,093	105,210,654	100,701,920	89,435,970	
	事業活動支出	106,951,097	101,644,212	104,575,104	100,789,555	90,937,601	
	施設整備収入	0	0	0	0	0	
	施設整備支出	0	145,860	0	4,192750	1,317,000	
	その他活動収入	5,000,000	0	0	245,100	757,918	
	その他活動支出	520,000	0	0	0	0	
	当期資金収支差額	3,227,889	△196,979	635,550	△4,035,285	△2,060,713	
	当期末資金収支残高	37,858	△3,190,031	△2,993,052	△3,628,602	406,683	
サービス区分	居宅介護支援事業	事業活動収入	33,243,975	31,833,533	37,506,031	34,429,100	22,125,980
		事業活動支出	34,659,917	31,663,242	37,302,391	34,416,724	23,691,607
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	3,965,600	1,168,500
		その他活動収入	5,000,000	0	0	0	606,730
		その他活動支出	236,000	0	0	0	0
		当期資金収支差額	3,348,058	170,291	203,640	△3,953,224	△2,127,397
		当期末資金収支残高	5,302,325	1,954,267	1,783,976	1,580,336	5,533,560
	地域包括支援センター	事業活動収入	72,455,011	69,759,560	67,704,623	66,272,820	67,309,990
		事業活動支出	72,291,180	69,980,970	67,272,713	66,372,831	67,245,994
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	145,860	0	227,150	148,500
		その他活動収入	0	0	0	245,100	151,188
		その他活動支出	284,000	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△120,169	△367,270	431,910	△82,061	66,684
		当期末資金収支残高	△5,264,467	△5,144,298	△4,777,028	△5,208,938	△5,126,877

※ 2024 年度（令和 6 年度）から居宅・包括は公益事業拠点区分として照古苑拠点区分から分離。2023 年度（令和 5 年度）以前は照古苑拠点区分から再掲したもの。

5 積立資産の状況

(1) たんぽぽ拠点

単位：円

年度	保育所人件費 積立資産	保育所修繕 積立資産	保育所備品等 購入積立資産	保育所施設設備 整備積立資産	退職給付 引当資産
2024 (R6)	10,000,000	5,500,000	2,819,620	26,000,000	4,217,870
2023 (R5)	9,000,000	5,500,000	2,500,000	23,000,000	3,923,750
2022 (R4)	6,000,000	5,500,000	2,500,000	21,000,000	4,616,050
2021 (R3)	16,000,000	6,500,000	4,700,000	16,000,000	4,974,670
2020 (R2)	16,000,000	8,000,000	7,700,000	40,000,000	4,592,830

(2) 照古苑拠点

単位：円

年度	照古苑施設整備 積立資産	照古苑備品購入積 立資産	照古苑人材育成 確保積立資産	退職給付 引当資産	
2024 (R6)	505,127,842	3,000,000	3,000,000	45,355,243	
2023 (R5)	507,139,342	3,000,000	3,000,000	50,690,467	
2022 (R4)	503,075,495	3,000,000	3,000,000	48,729,925	
2021 (R3)	505,157,495	3,000,000	3,000,000	49,487,456	
2020 (R2)	467,872,806	2,000,000	2,000,000	50,239,698	

(3) ひまわり拠点

単位：円

年度	ひまわり備品 購入積立資産	退職給付 引当資産			
2024 (R6)	1,160,000	10,674,697			
2023 (R5)	1,160,000	10,898,727			
2022 (R4)	1,160,000	9,694,082			
2021 (R3)	1,160,000	9,316,241			
2020 (R2)	1,060,000	8,636,110			

(3) 公益事業拠点

単位：円

年度	退職給付 引当資産				
2024 (R6)	6,557,284				
2023 (R5)	—				
2022 (R4)	—				
2021 (R3)	—				
2020 (R2)	—				